

アンケートの集計等による地域特性分析

(1) 全体概要

地域の特性を踏まえた地域包括ケアシステム構築の参考とするため、地域データやアンケートによる地域の特徴、地域ケア会議で皆様から頂いた意見をまとめたものです。

(2) 地域データについて

1. 地域データの見方

項目		小学校区の状況
人口 (A)		10月1日現在の人口 (地域包括支援センターシステム調べ)
高齢者人口 (B)		10月1日現在の65歳以上人口 (地域包括支援センターシステム調べ)
高齢化率 (B/A)		高齢者人口/人口
町内会数 (行政区)		会津若松市区長名簿の町内会数 (小学校区単位ではなく、行政区単位)
世帯数 (行政区)		会津若松市区長名簿の世帯数 (小学校区単位ではなく、行政区単位)
要介護等認定者数 (C)		10月1日現在の要介護等認定者数 (第1号被保険者・地域包括支援センターシステム調べ)
内訳	要介護3～5	上記の内訳
	要介護1～2	//
	要支援1～2	//
要介護等認定率 (C/B)		要介護等認定者数/高齢者人口
事業対象者数		10月1日現在の総合事業の事業対象者数 (地域包括支援センターシステム調べ)
民生委員・児童委員数 (方部別)		民生委員・児童委員数 (小学校区単位ではなく、民生児童委員協議会の方部別)
共生福祉相談員数 (方部別)		共生福祉相談員数 ※令和2年度は高齢者福祉相談員数 (小学校区単位ではなく、民生児童委員協議会の方部別)
老人クラブ数		活動団体数
地域サロン数		活動団体数 (市把握分のみ・社会福祉協議会からの活動助成を受けた団体を含む)

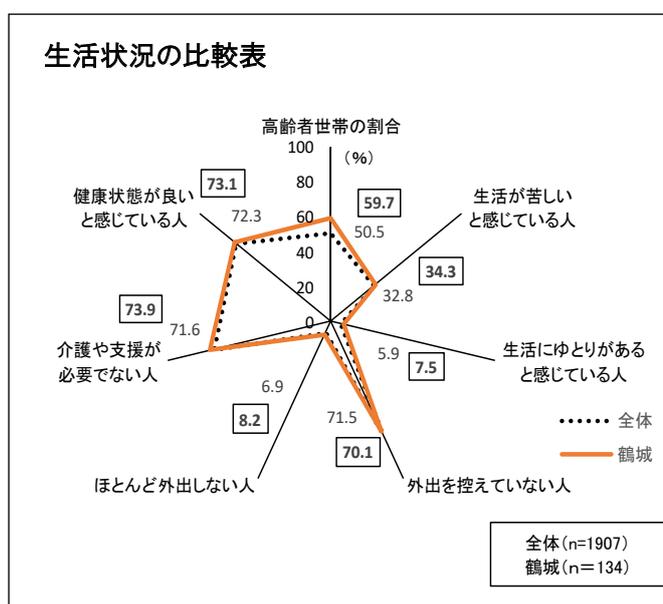
(3) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から見た地域特性について

1. 地区別の高齢者の状況

地区ごとの生活状況と社会参加状況について、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の結果を地区別のレーダーチャートにて表示しています。各項目に関して、各地区が会津若松市全体と比較してどの程度の差異があるのか、各項目のバランスから各地区にどのような特徴があるのかを知ることができます。

なお、本調査の対象者は要介護認定を受けていない比較的元気な高齢者であり、標本数（回答者全体で 1,871 人）も限られていることから、参考としてとらえることが適切な内容となっています。

2. レーダーチャートの表示内容



地区ごとレーダーチャートは、項目ごとの本市全体の平均値を点線で表示しています。

その平均値から各地区の値が市全体の値とどれだけのずれがあるかを示したものが実線（地区別の数値）です。

3. レーダーチャートの各項目の内容

1) 生活状況の比較表

① 高齢者世帯の割合

「家族構成」の設問で「一人暮らし」と「高齢者のみの世帯」と回答した人の割合の合計。

② 生活が苦しいと感じている人

「暮らしの状況」の設問で「苦しい」と「やや苦しい」と回答した人の割合の合計。

③ 生活にゆとりがあると感じている人

②の「暮らしの状況」の設問で「ゆとりがある」と「ややゆとりがある」と回答した人の割合の合計。

④ 外出を控えていない人

「体を動かすこと」の設問で「外出を控えていますか」という調査結果で「外出を控えていない」と回答した人の割合。

資料編

⑤ほとんど外出しない人

④の「体を動かすこと」の設問で「外出を控えていますか」という調査結果で「ほとんど外出しない」と回答した人の割合。

⑥介護や支援を必要としない人

「生活状況について」の設問で「介護・介助の必要がない」と回答した人の割合。

⑦健康状態が良いと感じている人

「健康について」の設問で「健康状態はいかがですか」という調査結果で「とてもよい」と「まあよい」と回答した人の割合の合計。

2) 社会参加の比較表

「地域での活動」の設問の以下の7項目について、「週4回以上」「週2～3回」「週1回以上」と回答した人の割合の合計。

①ボランティアのグループ

②スポーツ関係のグループやクラブ

③趣味関係のグループ

④学習・教養サークル

⑤介護予防のための通いの場・地域サロン等

⑥老人クラブ

⑦町内会・自治会

⑧収入のある仕事

(4) みんなで作る地区ごとコーナーについて

地域ケア会議・第二層（地区）協議体は、専門機関、関係機関、住民の代表者等によって構成され、地区単位の情報共有、地域資源・課題の検証を行っています。

本計画の策定にあわせ、地区ごとに、これまで検討してきたことや取り組んできた成果をまとめるとともに、これから取り組んでいくことを話し合いました。

この内容が「みんなで作る地区ごとコーナー ～みんなの取組 今まで・これから～」です。

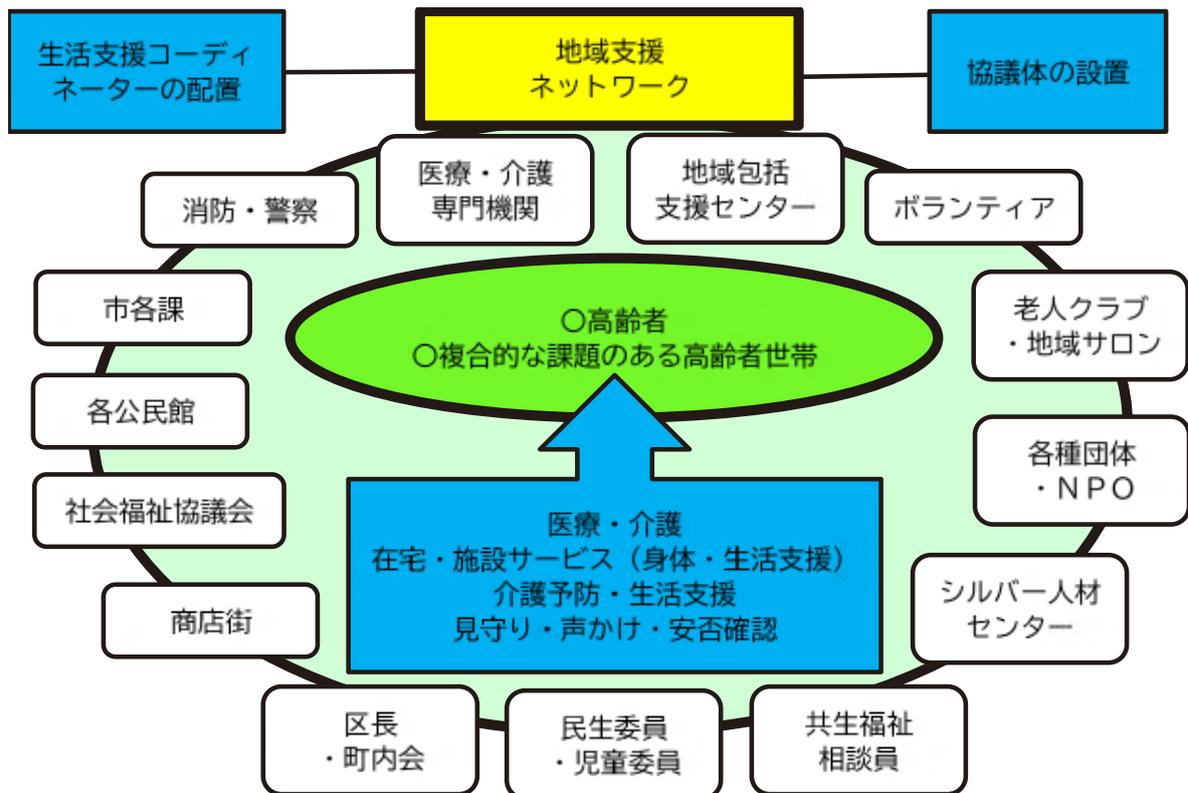
「地区ごとコーナー」は、

- (1) 生の声や思い、地域の現状を計画に反映させる
- (2) 自分の地区のこれまでとこれからをみんなで共有する
- (3) お互いの地区の取組を共有する

を目的として作り上げました。

地区ごとに掲げたスローガンのもと、地区の課題解決に取り組み、地域支援のネットワークの輪を広げていきます。

【地域支援ネットワーク】



日常生活圏域	若松第1	地区名	行仁小学校区
--------	------	-----	--------

担当：若松第1 地域包括支援センター

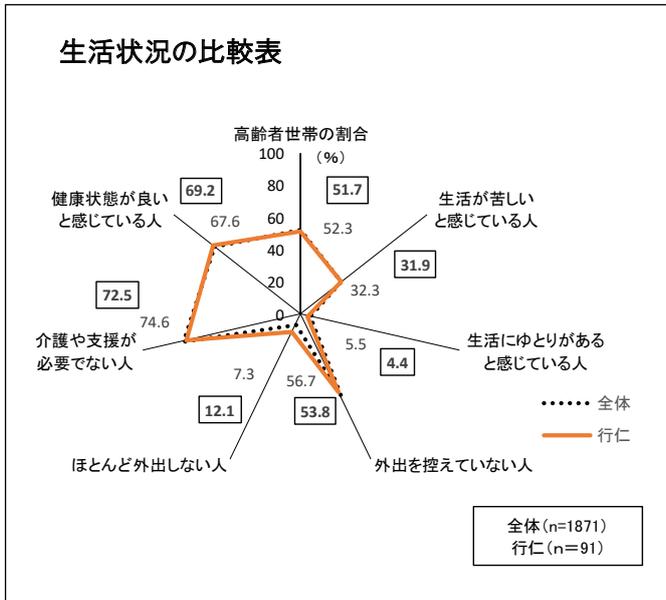
1. 地域データ

項目		行仁小学校区 (R2)	行仁小学校区 (R5)	(参考 R5) 全市
人口		5,611人	5,409人	113,004人
高齢者人口		1,789人	1,772人	36,538人
高齢化率		31.9%	32.8%	32.3%
町内会数(行政区)		43町内会	42町内会	506町内会
世帯数(行政区)		3,062世帯	3,039世帯	47,970世帯
要介護等認定者数		403人	376人	7,086人
内訳	(要介護3~5)	(166人)	(173人)	(2,232人)
	(要介護1~2)	(140人)	(106人)	(2,536人)
	(要支援1~2)	(97人)	(97人)	(2,318人)
要介護等認定率		22.5%	21.2%	19.4%
事業対象者数		10人	19人	400人
民生委員・児童委員数 (方部別)		19人	19人	279人
共生福祉相談員数(方部別)		3人	3人	52人
老人クラブ数		2団体	1団体	44団体
地域サロン数		5団体	16団体	210団体

【3年前との比較状況】

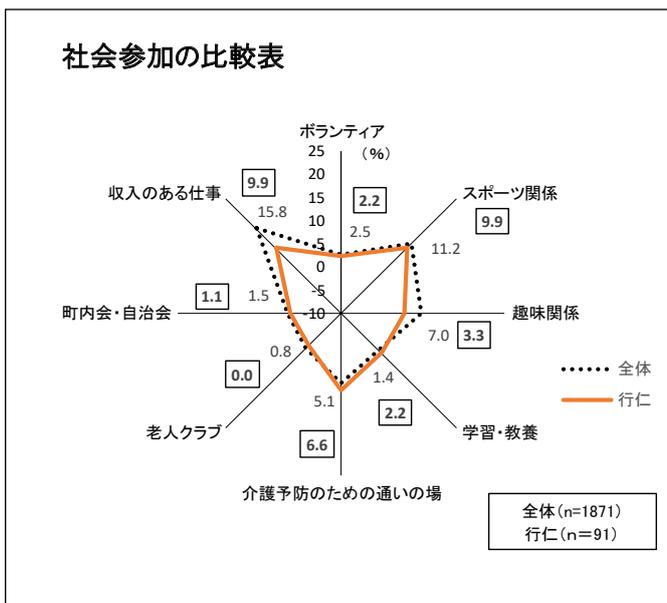
- 人口は202人減少、世帯数は23世帯減少しています。
- 高齢者人口は17人減少、高齢化率は0.9ポイント上がっています。
- 要介護等認定者数は27人減少、要介護等認定率は1.3ポイント下がっています。
- 事業対象者数は9人増加しています。
- 老人クラブは1団体減少しています。
- 地域サロンは11団体増加しています。

2. 行仁小学校区の介護予防・日常生活圏域二ゾーン調査から見た地域特性



〇市の中心部に近い地区で、買い物ができる店や病院等も多く、公共交通機関も比較的充実している地区です。

〇概ね市の平均と同じ傾向となっていますが、ほとんど外出しない人は多くなっています。



〇社会参加についても、概ね市の平均と同じ傾向となっていますが、趣味関係、収入のある仕事をしている人は少なくなっています。



【避難訓練】

行仁地区みんなで作る地区ごとコーナー ～みんなの取組 今まで・これから～

I 行仁地区の現状	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域サロンやいきいき百歳体操が継続されており、介護予防の意識が高い。 2 未来デザイン会議をきっかけに若い世代とつながる可能性がでてきた。 3 防災をテーマにした町内毎のミニケア会議の取組が始まっている。
-----------	--

II 行仁地区スローガン	「子どもから高齢者にやさしい町は、みんなにやさしい町」 ～皆で知恵と力を出し合って、行仁らしく行きましょう！～
--------------	--

III 第8期計画期間（令和3～5年度）の振り返り、取り組みと成果

【高齢者自身について】

○新型コロナウイルスの影響を受ける中でも、介護予防の意識は着実に高まってきており、「行ってみっ会」や「いきいき百歳体操」等は各団体の工夫により活動が継続された。また、介護予防の新たな取組として、屋外で行う「青空体操」を試みた。

【地域の取組について】

○「未来デザイン会議」において、地域の今後の施設のあり方や住民サービスについて、市や学校と話し合いを継続し、今後の地域づくりの方向性を検討してきた。

【防災対策について】

○災害時に備えるため、防災ミニケア会議を開催した。良い取り組みであったが、住民の理解が広がらなかった。

IV 第9期計画期間（令和6～8年度）の取り組み

【高齢者自身について】

◎介護予防の取組を推進するため、「地域サロン」や「いきいき百歳体操」、「青空体操」の開催情報をコミセン便りや人が集まる場所（スーパーなど）に掲示して、住民に情報が入りやすいように工夫し、参加者を増やしていきたい。

【地域の取組について】

◎地域行事の再開や、子どもや親世代など、多世代で参加できるイベントを開催して、若い世代とつながるきっかけとし、住民間の交流の促進や、高齢者の見守りを進めていきたい。

【防災対策について】

◎住民の防災意識を高め、防災対策を進めるために、市や地域包括支援センターと連携して町内ごとに防災ミニケア会議を開催し、災害時における要支援者の把握、関係者間での情報共有を進めたい。合わせて開催が進むように地域においてその手法を検討したい。

日常生活圏域	若松第1	地区名	鶴城小学校区
--------	------	-----	--------

担当：若松第1 地域包括支援センター

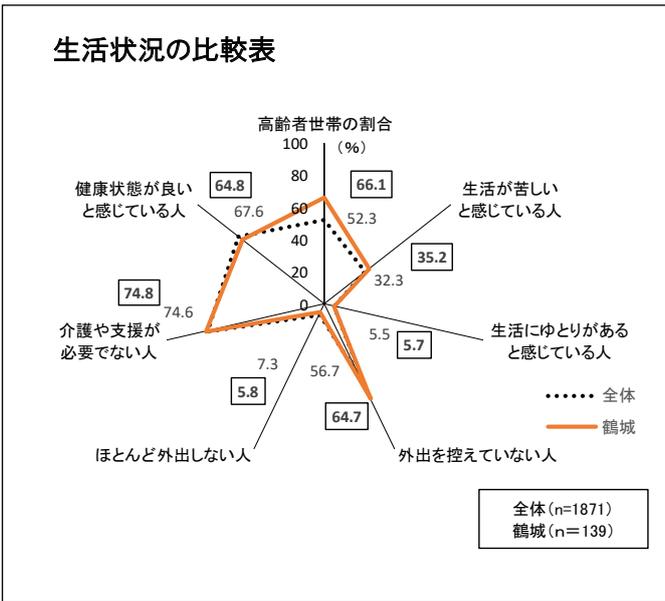
1. 地域データ

項目	鶴城小学校区 (R2)	鶴城小学校区 (R5)	(参考 R5) 全市
人口	7,289人	6,933人	113,004人
高齢者人口	2,618人	2,505人	36,538人
高齢化率	35.9%	36.1%	32.3%
町内会数(行政区)	30町内会	30町内会	506町内会
世帯数(行政区)	3,138世帯	3,180世帯	47,970世帯
要介護等認定者数	472人	499人	7,086人
内訳	(要介護3~5)	(117人)	(106人)
	(要介護1~2)	(166人)	(191人)
	(要支援1~2)	(189人)	(202人)
要介護等認定率	18.0%	19.9%	19.4%
事業対象者数	27人	34人	400人
民生委員・児童委員数 (方部別)	23人	23人	279人
共生福祉相談員数(方部別)	6人	6人	52人
老人クラブ数	4団体	3団体	44団体
地域サロン数	17団体	17団体	210団体

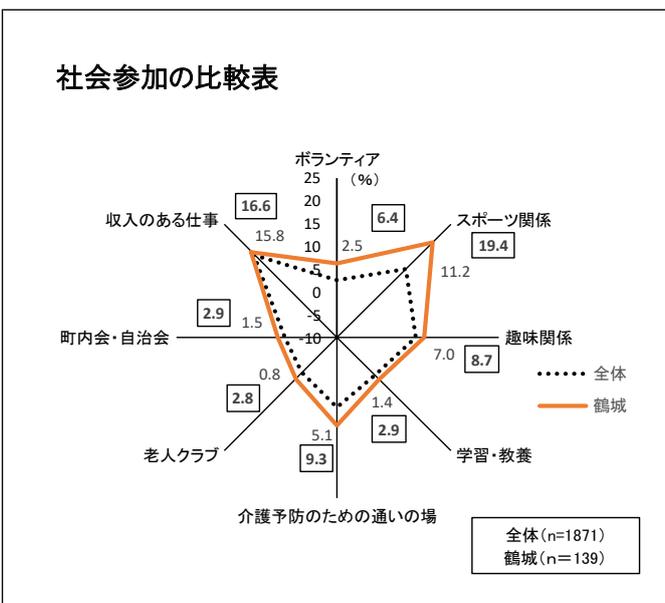
【3年前との比較状況】

- 人口は356人減少、世帯数は42世帯増加しています。
- 高齢者人口は113人減少、高齢化率は0.2ポイント上がっています。
- 要介護等認定者数は27人増加、要介護等認定率は1.9ポイント上がっています。
- 事業対象者数は7人増加しています。
- 老人クラブは1団体減少しています。
- 地域サロンは増減ありません。

2. 鶴城小学校区の介護予防・日常生活圏域二一ズ調査から見た地域特性



〇市の中心部の地区で、買い物ができる店や病院等も多く、公共交通も比較的充実している地区です。昔からの住宅等が多く高齢者世帯の割合が多くなっています。
 〇生活が苦しいと感じている人、外出を控えていない人が多くなっています。



〇社会参加については、多くの項目で市の平均を上回っており、積極的に社会参加をしている人が多いことがうかがえます。
 〇特にボランティア、スポーツ関係、介護予防のための通いの場に参加している人が多くなっています。



【介護予防体操】

鶴城地区みんなで作る地区ごとコーナー ～みんなの取組 今まで・これから～

I 鶴城地区の現状	<ol style="list-style-type: none"> 1 市内でも高齢化率が高く、高齢者単身世帯が増加している。 2 百歳体操やサロンに取り組む町内が多く、町内独自の活動を継続している。 3 民生委員と共生福祉相談員の連携で、高齢者の見守りがよくされている。
-----------	--

II 鶴城地区スローガン	みんなのためにボランティア精神を持って、まずは参加と行動を！！ ～ふれあい、つながりを大事にして～
--------------	--

III 第8期計画期間（令和3～5年度）の振り返り、取組みと成果

【高齢者自身について】

○民生委員と共生福祉相談員による見守りの他、継続的な見守りの仕組みとして「組リーダー」制や、リレー方式で支援につなぐ等町内毎の高齢者支援の工夫がある。

○百歳体操やサロン会が活発に行われ、集会所がない地区では空き家の活用や学校の教室活用の事例がある。

○高齢者の見守りにおいて、熱中症を心配することが多かった。

【地域の取組について】

○新型コロナウイルスの影響で地区行事や交流活動に制限があったものの、介護予防活動については開催時期の調整や少人数制にするなどの工夫により継続してきた。この活動が介護予防のみならず、高齢者の見守りにも有効であった。

○複数の町内会で「町内たより」を作成し、高齢者に町内の情報が届く工夫をしてきた。

【防災対策について】

○災害時への備えとして、3町内会で防災ミニケア会議を行い、支援が必要な高齢者の把握や一時避難場所の確認ができた。

IV 第9期計画期間（令和6～8年度）の取組み

【高齢者自身について】

◎より介護予防の取組を進めるために、集会所がなくてもできる青空ラジオ体操の試みを広めていく。

◎厳しい暑さが続くため、高齢者の暑さ対策を地域と市が一緒になって検討していく。

【地域の取組について】

◎見守りなどの支援が必要な高齢者の実態把握をミニネットワーク会議等を通して行い、民生委員と区長が見守りに必要な情報を共有できる方法を検討したい。

【防災対策について】

◎今後も町内ごとに防災ミニケア会議を開催し、災害時における要支援者の把握、関係者間での情報共有を進めたい。さらに、住民の防災意識を高めるための取組を検討したい。

日常生活圏域	若松第1	地区名	東山小学校区
--------	------	-----	--------

担当：若松第1 地域包括支援センター

1. 地域データ

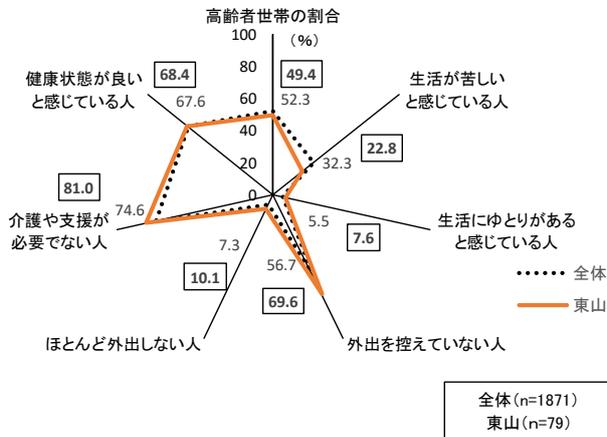
項目	東山小学校区 (R2)	東山小学校区 (R5)	(参考 R5) 全市
人口	5, 176人	5, 034人	113, 004人
高齢者人口	1, 642人	1, 591人	36, 538人
高齢化率	31. 7%	31. 6%	32. 3%
町内会数 (行政区)	16町内会	16町内会	506町内会
世帯数 (行政区)	2, 225世帯	2, 346世帯	47, 970世帯
要介護等認定者数	288人	315人	7, 086人
内訳	(要介護3~5)	(74人)	(2, 232人)
	(要介護1~2)	(122人)	(2, 536人)
	(要支援1~2)	(92人)	(2, 318人)
要介護等認定率	17. 5%	19. 8%	19. 4%
事業対象者数	13人	17人	400人
民生委員・児童委員数 (方部別)	12人	12人	279人
共生福祉相談員数 (方部 別)	2人	2人	52人
老人クラブ数	4団体	3団体	44団体
地域サロン数	14団体	15団体	210団体

【3年前との比較状況】

- 人口は142人減少、世帯数は121世帯増加しています。
- 高齢者人口は51人減少、高齢化率は0.1ポイント下がっています。
- 要介護等認定者数は27人増加、要介護等認定率は2.3ポイント上がっています。
- 事業対象者数は4人増加しています。
- 老人クラブは1団体減少しています。
- 地域サロンは1団体増加しています。

2. 東山小学校区の介護予防・日常生活圏域二一ズ調査から見た地域特性

生活状況の比較表

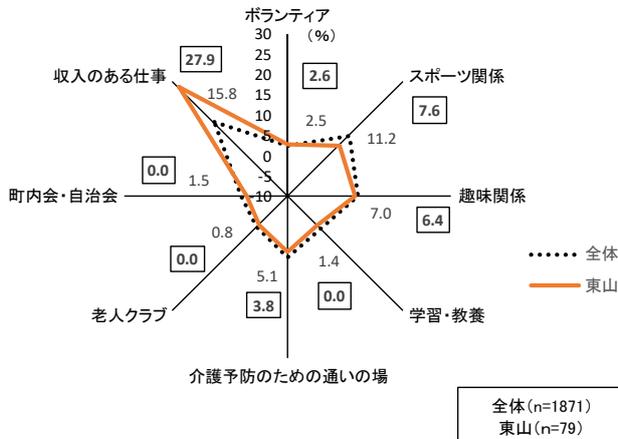


〇市の中心部に近い地区で、一部山間地が含まれます。地区内でも中心部に近いエリアでは買い物ができる店があり、観光地となっている温泉地もあることから公共交通機関も比較的整っています。

〇生活が苦しいと感じている人が少なくなっています。

〇外出を控えていない人、介護や支援が必要でない人が多くなっています。

社会参加の比較表



〇社会参加については、収入のある仕事をしている人が極めて多くなっています。

〇スポーツ関係に参加している人は少なくなっています。



【青空体操】

東山地区みんなで作る地区ごとコーナー ～みんなの取組 今まで・これから～

I 東山地区の現状	<ol style="list-style-type: none"> 1 地区社協ができており、高齢者分野の活動だけでなく、子どもとの交流も続いている。 2 百歳体操、サロン、カフェ、青空体操が地域に根付いている。 3 一人暮らし高齢者の見守りは、民生委員と共生福祉相談員が連携よくされている。
-----------	--

II 東山地区スローガン	もっと、みんなでよくすんべ東山～みんなが、いきいき暮らせるまちづくり～わがこと丸ごと、老いも若きも力を合わせて、一人一人が作り手となって！
--------------	---

III 第8期計画期間（令和3～5年度）の振り返り、取り組みと成果

【高齢者自身について】

○新型コロナウイルスの影響で集まりの場の開催や参加に制限があったものの、住民と東公民館等関係機関との連携工夫により「カフェ」や「百歳体操」の活動が維持された。

○密を避けるために「青空体操」を実施し定着した地域がある。新たに参加者同士の見守りや声掛けあいが生まれている。

【地域の取組について】

○地元園児によるあいさつ、ポスター作成、小学校での認知症サポーター養成講座、健康づくり講演会など地区社協ならではの取組も行ってきた。高齢者が活躍するチョコチョコキボランティアも続いた。

○社会福祉協議会の生活サポート相談窓口の出張相談窓口が月1回設置され、相談しやすい環境づくりに寄与した。

【防災対策について】

○東山地区は中心部に土砂災害警戒区域があり、区長会が中心となって市危機管理課と避難できる場所の確保について話し合いを行っている。

IV 第9期計画期間（令和6～8年度）の取り組み

【高齢者自身について】

◎介護予防の取組をより進めるため、活動の場として活用できそうな場所、管理方法などを把握したり、既存の集会所をもっと使いやすくする方法を考える。

◎高齢者の見守り継続のために、町内会支援マップの定期的な更新を検討していく。

【地域の取組について】

◎高齢者のボランティア活動と地域のつながりが見えやすい工夫をし、高齢者の生きがいづくりにつなげていきたい。また、若い世代が地域活動に参加しやすいよう「敬老会」や「老人クラブ」のネーミングや活動の中身を検討していく。

【防災対策について】

◎住民一人一人の意識を高めるための防災学習の機会や、災害時の近所同士の声掛け合いなどできる範囲での行動を平常時から考えていきたい。また、地区内の介護施設等が、近隣住民の準避難場所（仮称）になり得るのか条件整理を進めていきたい。

日常生活圏域	若松第2	地区名	謹教小学校区
--------	------	-----	--------

担当：若松第2地域包括支援センター

1. 地域データ

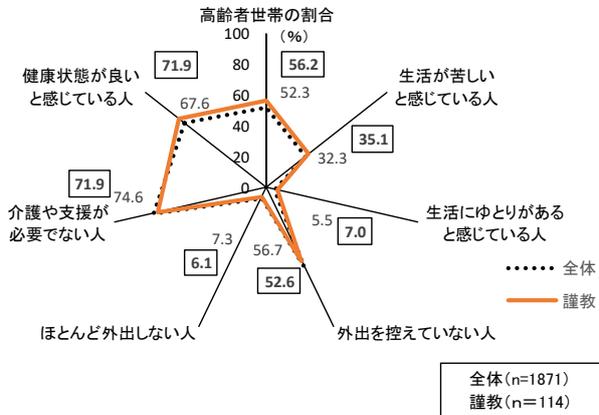
項目	謹教小学校区 (R2)	謹教小学校区 (R5)	(参考 R5) 全市
人口	7,509人	6,974人	113,004人
高齢者人口	2,402人	2,390人	36,538人
高齢化率	32.0%	34.3%	32.3%
町内会数(行政区)	60町内会	60町内会	506町内会
世帯数(行政区)	4,368世帯	4,294世帯	47,970世帯
要介護等認定者数	528人	530人	7,086人
内訳	(要介護3~5)	(133人)	(2,232人)
	(要介護1~2)	(201人)	(2,536人)
	(要支援1~2)	(194人)	(2,318人)
要介護等認定率	22.0%	22.2%	19.4%
事業対象者数	27人	34人	400人
民生委員・児童委員数 (方部別)	22人	22人	279人
共生福祉相談員数(方部別)	5人	5人	52人
老人クラブ数	4団体	2団体	44団体
地域サロン数	13団体	12団体	210団体

【3年前との比較状況】

- 人口は535人減少、世帯数は74世帯減少しています。
- 高齢者人口は12人減少、高齢化率は2.3ポイント上がっています。
- 要介護等認定者数は2人増加、要介護等認定率は0.2ポイント上がっています。
- 事業対象者数は7人増加しています。
- 老人クラブは2団体減少しています。
- 地域サロンは1団体減少しています。

2, 謹教小学校区の介護予防・日常生活圏域二一ズ調査から見た地域特性

生活状況の比較表

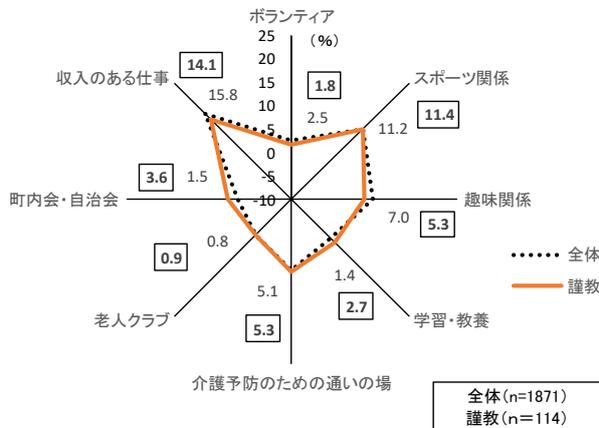


〇市の中心部の地区で、買い物ができる店や病院等も多く、公共交通機関も比較的充実している地区です。昔からの住宅等も多く高齢者世帯の割合が多くなっています。

〇外出を控えていない人、介護や支援が必要でない人は少なくなっています。

〇健康状態が良いと感じている人は多くなっています。

社会参加の比較表



〇社会参加については、概ね市の平均と同じ傾向となっていますが、町内会・自治会に参加している人がわずかに多くなっています。



【健康相談会】

謹教地区みんなで作る地区ごとコーナー ～みんなの取組 今まで・これから～

Ⅰ 謹教地区の現状	1 高齢者の単身世帯等が増加し、支援が必要な世帯が増加している。 2 新型コロナウイルスの影響で世代間の繋がりが薄れ、地域住民間の交流活動が縮小している。 3 水害の発生・空き家対策などへの身近な備えが進められてきている。
-----------	---

Ⅱ 謹教地区スローガン	お互いの 顔が見える まちづくり
-------------	------------------

Ⅲ 第8期計画期間（令和3～5年度）の振り返り、取り組みと成果

【高齢者自身について】

○コロナ禍でも地域サロンの継続や、新たにいきいき百歳体操の立ち上げなど介護予防への意識が高まっている。また、サロン活動の中で認知症の理解を深めるため、認知症サポーター養成講座を行ってきた。しかし、依然として男性の参加者が増えない事が課題となっている。

【地域の取組について】

○認定こども園園児による一人暮らし高齢者宅の訪問活動が継続できており、また、通学路の除雪ボランティアに参加する住民が増えているなど協力体制が構築されている。

【生活環境づくりについて】

○地域内で空き家の増加が見られるなど、地域環境の悪化も見られていることから、町内会で独自に空き家の調査を実施した。

【防災対策について】

○災害時に支援が必要な地域住民（障がい等）や一時避難できる空き地の情報が共有できているが、一方で住民全体の防災意識が高まってはいないという課題もある。

Ⅳ 第9期計画期間（令和6～8年度）の取り組み

【高齢者自身について】

◎介護予防を推進するため、歩いて通える地区に地域サロンの設置を目指す。また、男性高齢者の参加を増やす手法を検討したい。そのため、活動の場として空き家の活用、民間事業所やお寺とのコラボレーションなどの事業展開を進めたい。

【地域の取組について】

◎地域行事として祭りの復活や、子ども会と高齢者が触れ合える場を作り、住民間の交流や世代間の交流を促進していきたい。加えて、認知症の高齢者を地域全体で支援し、見守る体制づくりを進めたい。また「町内ボランティア」組織の構築を進めていきたい。

【防災対策について】

◎町内会単位で、避難行動時の支援方法や役割分担等、具体的なシステム作りを進めたい。また、一時避難場所、避難所までの経路をみんなで確認するとともに、町内会の連絡網にライン等の活用を検討したい。

日常生活圏域	若松第2	地区名	城西小学校区
--------	------	-----	--------

担当：若松第2地域包括支援センター

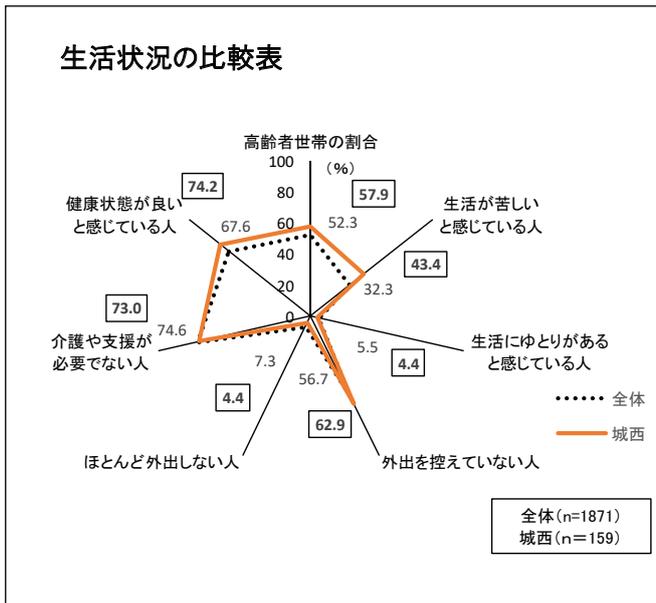
1. 地域データ

項目	城西小学校区 (R2)	城西小学校区 (R5)	(参考 R5) 全市
人口	10,374人	10,050人	113,004人
高齢者人口	3,163人	3,116人	36,538人
高齢化率	30.5%	31.0%	32.3%
町内会数(行政区)	31町内会	31町内会	506町内会
世帯数(行政区)	4,760世帯	4,819世帯	47,970世帯
要介護等認定者数	617人	604人	7,086人
内訳	(要介護3~5)	(175人)	(173人)
	(要介護1~2)	(241人)	(241人)
	(要支援1~2)	(201人)	(190人)
要介護等認定率	19.5%	19.4%	19.4%
事業対象者数	31人	28人	400人
民生委員・児童委員数 (方部別)	22人	22人	279人
共生福祉相談員数(方部別)	6人	6人	52人
老人クラブ数	7団体	6団体	44団体
地域サロン数	11団体	13団体	210団体

【3年前との比較状況】

- 人口は324人減少、世帯数は59世帯増加しています。
- 高齢者人口は47人減少、高齢化率は0.5ポイント上がっています。
- 要介護等認定者数は13人減少、要介護等認定率は0.1ポイント下がっています。
- 事業対象者数は3人減少しています。
- 老人クラブは1団体減少しています。
- 地域サロンは2団体増加しています。

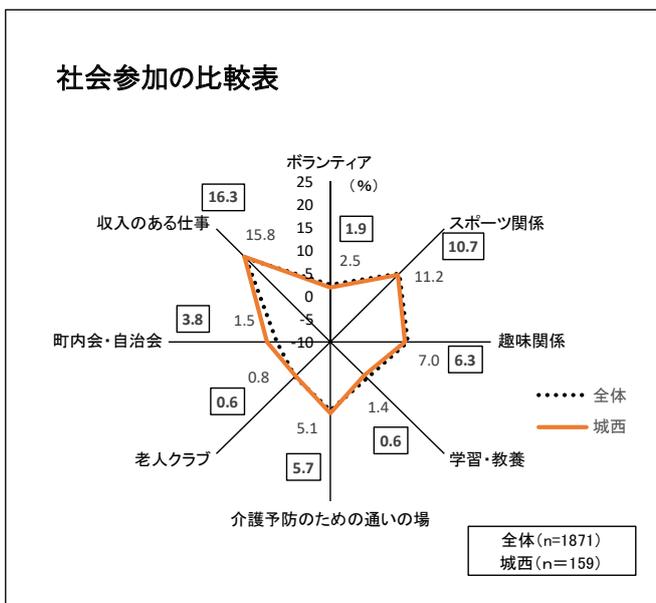
2. 城西小学校区の介護予防・日常生活圏域二一ズ調査から見た地域特性



〇市の中心部に近い地区で、買い物ができる店や病院等も多く、公共交通機関も比較的充実している地区です。昔からの住宅等も多く高齢者世帯の割合が多くなっています。

〇生活が苦しいと感じている人、外出を控えていない人、健康状態が良いと感じている人が多くなっています。

〇ほとんど外出しない人が少なくなっています。



〇社会参加については、概ね市の平均と同じ傾向となっていますが、町内会・自治会に参加している人がわずかに多くなっています。



【ラジオ体操】

城西地区みんなで作る地区ごとコーナー ～みんなの取組 今まで・これから～

I 城西地区の現状	<ol style="list-style-type: none"> 1 少子高齢化の進行や新型コロナウイルスの影響で、地域住民間の交流の機会が途絶え、若い世代に地域活動のノウハウを継承できず、地域全体の関係性も希薄となってきている。 2 高齢者の単身世帯等が増加し、支援が必要な世帯が増加している。 3 地域活動を活性化する取組や災害への備えが進められてきている。
-----------	--

II 城西地区スローガン	踏み出して ”一緒にあいばせ” 仲間の輪
--------------	----------------------

III 第8期計画期間（令和3～5年度）の振り返り、取り組みと成果

【高齢者自身について】

○高齢者の介護予防の取組は着実に進んでおり、「つなポン」を活用しながら団地を中心とした「地域サロン活動」の継続や「いきいき百歳体操」の立ち上げができ、こうした場が日常の悩み事を話し合う機会にもなっている。

○一方で、老人会やサロン等の男性参加者が少ないという課題は続いている。

【地域の取組について】

○地域の環境改善や住民間の関係性を築くため、花壇整備や清掃活動、除雪のボランティア活動が継続的に行われている。また、町内会独自にボランティア活動として、ゴミ出しや除雪を行っている町内もある。

【防災対策について】

○水害への備えが必要であり、自主防災組織を結成し定期的に会合をもつ町内がある一方で、「災害は他人事」として対策が進まない町内が多い現状がある。

IV 第9期計画期間（令和6～8年度）の取り組み

◎住民間のつながりづくりを目指し、地域行事を再開するなど様々な機会づくりをしながら、住民間・世代間の交流の促進や、「困っていること」を相談し合える関係作りを進めていきたい。

【高齢者自身について】

◎「地域サロン」や「いきいき百歳体操」を継続していきたい。また、男性参加者を募るための手法を検討したい。（囲碁、将棋、しめ縄作り、そば会等の機会づくり）

【地域の取組について】

◎地域イベントの再開や環境整備活動を継続し、さらには休耕地を活用して子どもと一緒に農業体験や収穫祭等を行い「食育」も進めたい。また、日頃から気軽に「困っている。手伝って」と相談し合える関係作りや、「ちょいボランティア」の組織づくりについて具体的な方法を検討していきたい。

【防災対策について】

◎地区内の危険箇所、避難場所、避難経路を再確認したうえで、町内会や団地ごと、または学校や事業所と合同の避難訓練を実施していきたい。また、定期的に側溝、水路の清掃活動を実施し、町内会単位で防災講座を開くなど、住民一人一人が「我がこと」として防災意識を高めていけるようにしたい。

日常生活圏域	若松第2	地区名	小金井小学校区
--------	------	-----	---------

担当：若松第2地域包括支援センター

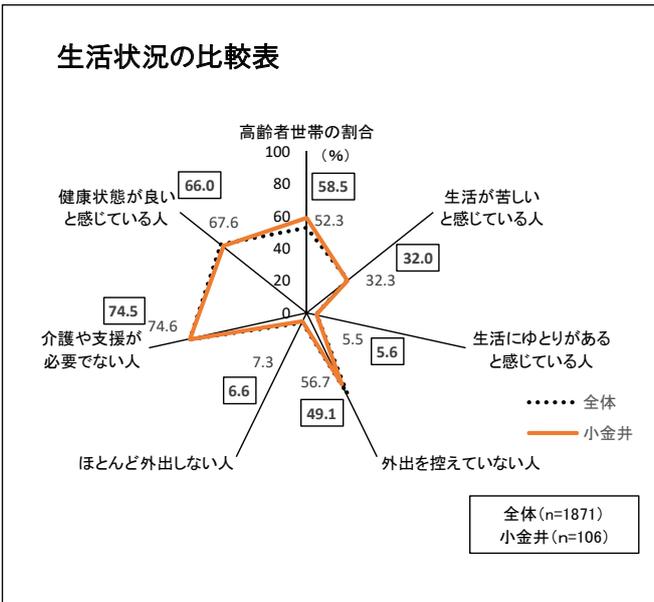
1. 地域データ

項目	小金井小学校区 (R2)	小金井小学校区 (R5)	(参考 R5) 全市	
人口	9,005人	8,906人	113,004人	
高齢者人口	2,117人	2,236人	36,538人	
高齢化率	23.5%	25.1%	32.3%	
町内会数 (行政区)	(城西・門田地区に計上)	(城西・門田地区に計上)	506町内会	
世帯数 (行政区)	(城西・門田地区に計上)	(城西・門田地区に計上)	47,970世帯	
要介護等認定者数	302人	322人	7,086人	
内訳	(要介護3~5)	(86人)	(77人)	(2,232人)
	(要介護1~2)	(106人)	(126人)	(2,536人)
	(要支援1~2)	(110人)	(119人)	(2,318人)
要介護等認定率	14.3%	14.4%	19.4%	
事業対象者数	17人	13人	400人	
民生委員・児童委員数 (方部別)	(城西・門田地区に計上)	(城西・門田地区に計上)	279人	
共生福祉相談員数 (方部別)	(城西・門田地区に計上)	(城西・門田地区に計上)	52人	
老人クラブ数	2団体	1団体	44団体	
地域サロン数	4団体	6団体	210団体	

【3年前との比較状況】

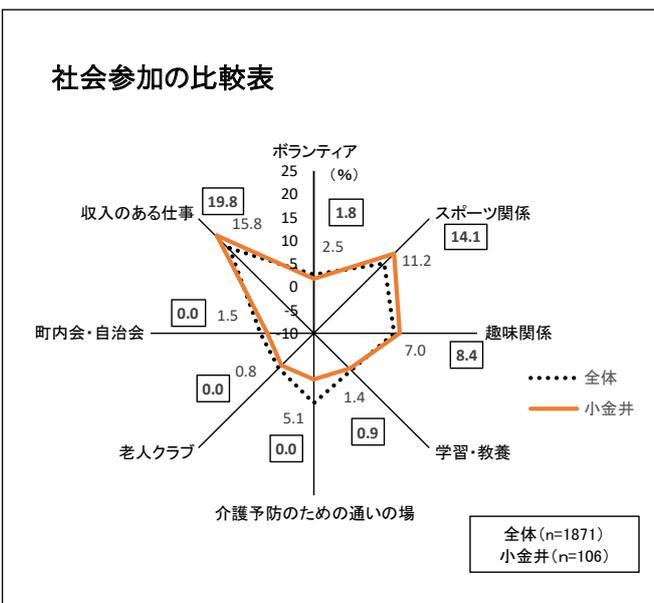
- 人口は99人減少しています。
- 高齢者人口は119人増加、高齢化率は1.6ポイント上がっています。
- 要介護等認定者数は20人増加、要介護等認定率は0.1ポイント上がっています。
- 事業対象者数は4人減少しています。
- 老人クラブは1団体減少しています。
- 地域サロンは2団体増加しています。

2. 小金井小学校区の介護予防・日常生活圏域二エズ調査から見た地域特性



〇市の南西部の中心部に近い地区で、比較的新興住宅が多い地区です。そのため、車での移動を前提とした店等が多い地区です。

〇概ね市の平均と同じ傾向となっていますが、高齢者世帯の割合は多く、外出を控えていない人は少なくなっています。



〇社会参加については、スポーツ関係、収入のある仕事をしている人が多くなっています。

〇介護予防のための通いの場に参加している人は少なくなっています。



【サロン活動】

小金井地区みんなで作る地区ごとコーナー ～みんなの取組 今まで・これから～

Ⅰ 小金井地区の現状	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもが多い地区ではあるが、少子高齢化も進行し、地域活動の継続を困難にしつつある。 2 新型コロナウイルスの影響で地域住民間の交流活動が縮小している。 3 防災を切り口に地域の助け合いの仕組みづくりが進んできている。
------------	--

Ⅱ 小金井地区スローガン	となりの人を気にかけて 何気ない会話ができる町
--------------	-------------------------

Ⅲ 第8期計画期間（令和3～5年度）の振り返り、取り組みと成果

【高齢者自身について】

○コロナ禍でも老人会や地域サロン活動、いきいき百歳体操が継続できているが、参加者が減少し新たな参加者を募る方策の検討が課題となっている。

【地域の取組について】

○子ども会の参加者や地域の消防団員の減少が懸念されている。

○区長会や老人会を始めとする地域団体が協力して、あいさつ運動や花壇整備、神社の清掃活動が継続できている。

○地区内において、近所の有志によるゴミ出しや間口の除雪の助け合いが出来ている町内会がある一方で、ボランティア登録が進まない町内会もあり町内間の格差がある。

【防災対策について】

○防災意識の高まりも見られ、町内で防災講座を開催したり、避難行動要支援者の把握を行った町内もあった。

Ⅳ 第9期計画期間（令和6～8年度）の取り組み

◎地域サロンを継続・推進し、また、地域行事の再開や、あいさつ運動を通して、介護予防や住民間交流の促進、高齢者の見守りを進めていきたい。

【高齢者自身について】

◎「地域サロン」や「いきいき百歳体操」の団体数、新たな参加者を増やしたい。また、公園サロン（青空サロン）を春・秋に開催して合唱やおしゃべりする場を作りたい。

【地域の取組について】

◎施設事業所等と連携し、夏祭りなど地域のイベントを再開したい。また、世代間交流の場を増やすことで、地域の活性化を図りたい。

◎除雪について、間口除雪の互助を組織化していきたい。また、周知活動だけでなく、子ども食堂を通して親やボランティアとの関係を広げることで、ボランティア登録者を増やし、地域の繋がりへと発展させたい。

【防災対策について】

◎避難場所・避難所を再確認し、小学校や施設事業所と合同の避難訓練を実施していきたい。また、住民一人一人の防災意識を高めるために、町内会単位で防災講座の開催し、一人暮らし高齢者の避難計画の作成を具体的に進めていきたい。

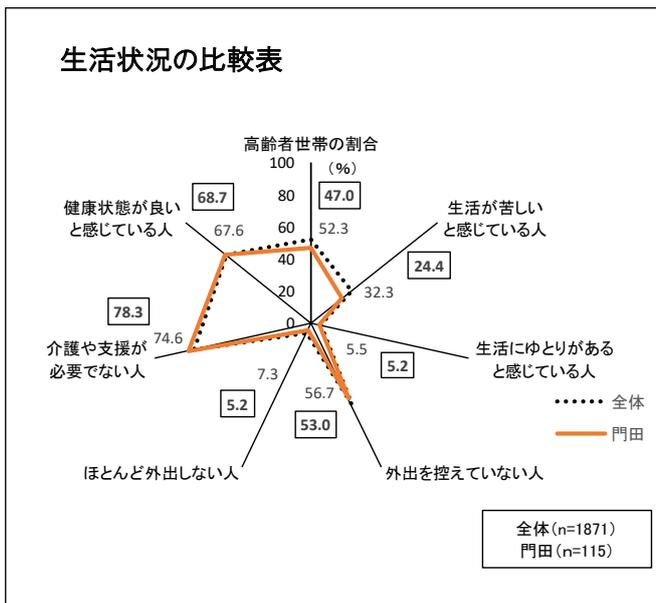
日常生活圏域	若松第3	地区名	門田・城南小学校区
--------	------	-----	-----------

担当：若松第3地域包括支援センター

1. 地域データ

項目		門田小学校区 (R5)	城南小学校区 (R5)	(参考 R5) 全市
人口		7,639人	6,519人	113,004人
高齢者人口		2,219人	1,924人	36,538人
高齢化率		29.0%	29.5%	32.3%
町内会数(行政区)		45町内会		506町内会
世帯数(行政区)		8,258世帯		47,970世帯
要介護等認定者数		394人	402人	7,086人
内訳	(要介護3~5)	(129人)	(116人)	(2,232人)
	(要介護1~2)	(139人)	(174人)	(2,536人)
	(要支援1~2)	(126人)	(112人)	(2,318人)
要介護等認定率		17.8%	20.9%	19.4%
事業対象者数		23人	28人	400人
民生委員・児童委員数(方部別)		28人		279人
共生福祉相談員数(方部別)		5人		52人
老人クラブ数		2団体	1団体	44団体
地域サロン数		9団体	6団体	210団体
項目		門田小学校区 (R2)	城南小学校区 (R2)	(参考 R2) 全市
人口		7,890人	6,773人	117,299人
高齢者人口		2,173人	1,898人	36,399人
高齢化率		27.5%	28.0%	31.0%
町内会数(行政区)		45町内会		506町内会
世帯数(行政区)		8,104世帯		46,889世帯
要介護等認定者数		384人	389人	7,002人
内訳	(要介護3~5)	(106人)	(113人)	(2,168人)
	(要介護1~2)	(150人)	(177人)	(2,553人)
	(要支援1~2)	(128人)	(99人)	(2,281人)
要介護等認定率		17.7%	20.5%	19.2%
事業対象者数		13人	26人	414人
民生委員・児童委員数(方部別)		28人		279人
高齢者福祉相談員数(方部別)		5人		52人
老人クラブ数		2団体	2団体	59団体
地域サロン数		8団体	4団体	168団体

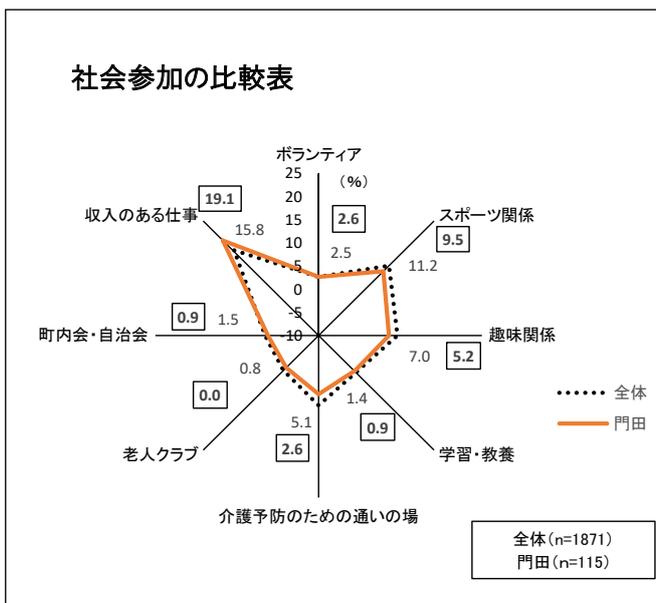
2—①. 門田小学校区の介護予防・日常生活圏域二一ズ調査から見た地域特性



〇市の南部の中心部に近い地区で、一部に山林地帯と新興住宅地も含まれる地区で、高齢者世帯は少なくなっています。買い物ができる店や病院等はあるものの、車での移動を前提とした店等が多い地区です。

〇生活が苦しいと感じている人、外出を控えていない人が少なくなっています。

〇介護や支援が必要でない人は多くなっています。



〇社会参加については、概ね市の平均と同じ傾向となっていますが、収入のある仕事をしている人が多くなっています。

【3年前との比較状況】

【門田小学校区】

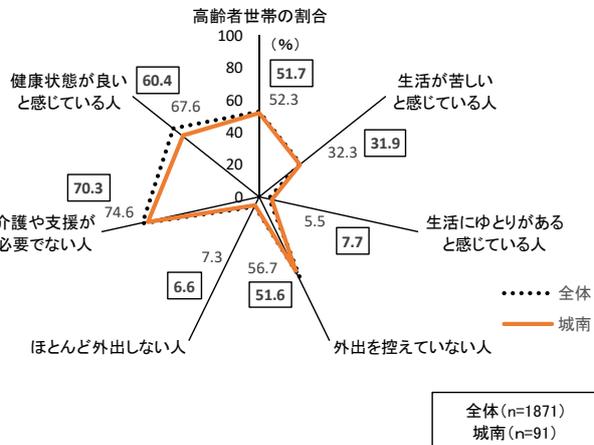
- ・人口は 251 人減少しています。
- ・高齢者人口は 46 人増加、高齢化率は 1.5 ポイント上がっています。
- ・要介護等認定者数は 10 人増加、要介護等認定率は 0.1 ポイント上がっています。
- ・事業対象者数は 10 人増加しています。
- ・老人クラブは増減ありません。
- ・地域サロンは 1 団体増加しています。

【城南小学校区】

- ・人口は 254 人減少しています。
- ・高齢者人口は 26 人増加、高齢化率は 1.5 ポイント上がっています。
- ・要介護等認定者数は 13 人増加、要介護等認定率は 0.4 ポイント上がっています。
- ・事業対象者数は 2 人増加しています。
- ・老人クラブは 1 団体減少しています。
- ・地域サロンは 2 団体増加しています。

2—②. 城南小学校区の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から見た地域特性

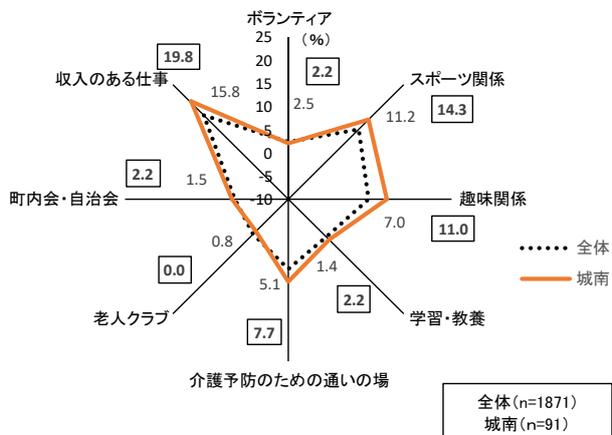
生活状況の比較表



〇市の中心部に近い地区で、買い物ができる店や病院等も多く、公共交通機関も比較的充実している地区と言えます。昔からの住宅等も多い地区です。

〇外出を控えていない人、介護や支援が必要でない人、健康状態が良いと感じている人が少なくなっています。

社会参加の比較表



〇社会参加については、スポーツ関係、趣味関係、収入のある仕事をしている人が多くなっています。



【あいさつ運動】

門田・城南地区みんなで作る地区ごとコーナー ～みんなの取組 今まで・これから～

I 門田・城南地区の現状	<ol style="list-style-type: none"> 1 少子高齢化の進行が、地域活動を困難にしている。 2 新型コロナウイルスの影響で、地域住民間の交流活動が停滞している。 3 あいさつ運動を切り口に、住民間の助け合いが進みつつある。
--------------	---

II 門田・城南地区スローガン	全世帯が見守り世帯 えがおであいさつ 門田町
-----------------	------------------------

III 第8期計画期間（令和3～5年度）の取り組みと成果

【高齢者自身について】

○新型コロナウイルスの影響で、地域サロンや老人クラブに参加できない人も増えたが、一方で介護予防への意識は着実に高まっており、活動の継続や立ち上げができていた。特に、福祉事業所と連携し地区の区分を超えた地域サロンが立ちあがったり、ラジオ体操や歩け歩け運動（保健委員会主催）が継続されてきている。

【地域の取組について】

○現在、つながりの再構築を「あいさつ運動」を切り口に展開しており、住民同士の挨拶が増えてきている。また、歳の神の継続や、子ども会で夏祭りの行事を行うことができた町内があった。

【防災対策について】

○災害への備えとして自主防災組織が、年1回の避難訓練を実施している町内や、地域サロンを対象に「防災を考える会」が開催された地区があった。

IV 第9期計画期間（令和6～8年度）の取り組み

【高齢者自身について】

◎介護予防を推進するため「地域サロン」や「いきいき百歳体操」とともに、世代間交流ができる地域行事を再開し、住民間の交流の促進を図り、また、高齢者の見守りを進めていきたい。

【地域の取組について】

◎子どもと交流できるイベントや地域行事を復活するとともに、「あいさつマップ」の作成を通して、地域事業所も含めた住民間のつながり・支え合いの仕組みを展開していきたい。

◎支援が必要な高齢者の情報の共有を検討し、町内単位で高齢者世帯の見守りを取り組みたい。

【防災対策について】

◎地区内で自主防災組織の結成を広げ、高齢者や障がいのある方も含めた避難方法を確認していきたい。

日常生活圏域	若松第3	地区名	大戸小学校区
--------	------	-----	--------

担当：若松第3地域包括支援センター

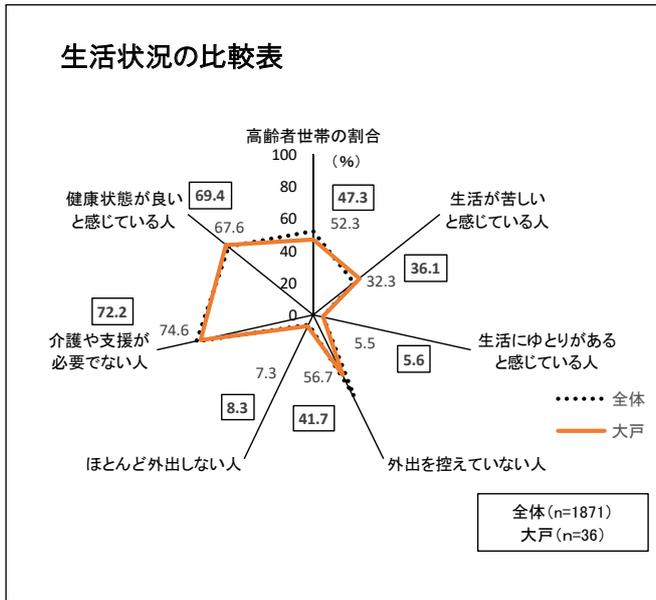
1. 地域データ

項目	大戸小学校区 (R2)	大戸小学校区 (R5)	(参考 R5) 全市
人口	1,418人	1,267人	113,004人
高齢者人口	702人	675人	36,538人
高齢化率	49.5%	53.3%	32.3%
町内会数 (行政区)	14町内会	14町内会	506町内会
世帯数 (行政区)	460世帯	437世帯	47,970世帯
要介護等認定者数	194人	176人	7,086人
内訳	(要介護3~5)	(86人)	(2,232人)
	(要介護1~2)	(57人)	(2,536人)
	(要支援1~2)	(51人)	(2,318人)
要介護等認定率	27.6%	26.1%	19.4%
事業対象者数	3人	7人	400人
民生委員・児童委員数 (方部別)	10人	10人	279人
共生福祉相談員数 (方部別)	2人	2人	52人
老人クラブ数	2団体	2団体	44団体
地域サロン数	6団体	10団体	210団体

【3年前との比較状況】

- 人口は151人減少、世帯数は23世帯減少しています。
- 高齢者人口は27人減少、高齢化率は3.8ポイント上がっています。
- 要介護等認定者数は18人減少、要介護等認定率は1.5ポイント下がっています。
- 事業対象者数は4人増加しています。
- 老人クラブは増減ありません。
- 地域サロンは4団体増加しています。

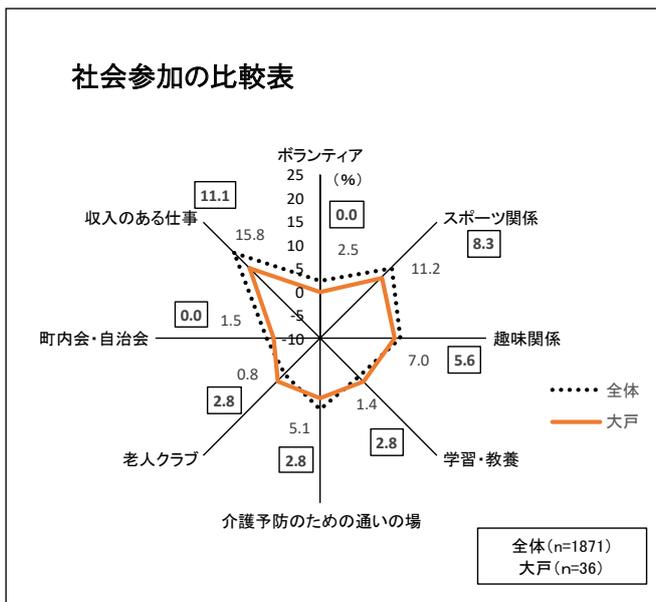
2. 大戸小学校区の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から見た地域特性



○市の南部の地区で、中山間地域がその大部分を占める地区です。

○高齢者世帯の割合が少なくなっています。

○生活が苦しいと感じている人が多く、外出を控えていない人が少なくなっています。



○社会参加については、市の平均よりも少ない傾向となっており、特に収入のある仕事をしている人が少なくなっています。



【地域ケア会議】

大戸地区みんなで作る地区ごとコーナー ～みんなの取組 今まで・これから～

I 大戸地区の現状	1 高齢化の進行や高齢者の単身世帯等が増加し、見守り等の支援が必要な方が増加している。 2 新型コロナウイルスの影響で地域住民・世代間交流活動が停滞している。 3 移動や買い物などの地域課題が顕在化しており、対策が進められている。
-----------	---

II 大戸地区スローガン	①健康寿命を延ばそう！！ ～ピンピンコロリン～ ②健康意識はリーダー作りから！
--------------	--

III 第8期計画期間（令和3～5年度）の取り組みと成果

【高齢者自身について】

○単身高齢者も増加しており、生活習慣病を持つ方も多い現状にある。大戸地区全体の健康づくりとして「冬のまるごと健康ウォークin大戸」が開催され多くの参加者があった。

【生活環境づくりについて】

○新型コロナウイルスの影響などで、老人会加入者の減少が見られ、「老人会」や「地域サロン」「いきいき百歳体操」等に参加できない高齢者、特に男性高齢者が増えた。

○地域の課題として病院や買い物の便が悪く、また公共交通機関が少ないため、閻川地区でボランティア輸送実証を実施し、一定数の利用があったことなど検証が進められた。

【防災対策について】

○防災の取組を推進するため、「防災講座」を開催した地区があった。また、避難所や避難時の行動、危険箇所の確認ができる「防災マップ」が作成できた。

IV 第9期計画期間（令和6～8年度）の取り組み

◎住民の社会参加を促すため、既存の催しを利用し、コミュニティの場を増やしていきたい。様々な内容の活動を取入れ活性化を図るとともに、各地区でのリーダー養成を検討していきたい。

【高齢者自身について】

◎介護予防の推進を図るため、出張介護予防教室、認知症や介護保険の勉強会を開催し、合わせてサロン等で住民の意向や思いを引き出していく環境づくりを進めたい。

【地域の取組について】

◎地域の住民同士で高齢者等を見守っていく仕組みを検討するとともに、ボランティア団体の立ち上げを検討していく。また、地域資源を活かしたウォーキングなど気軽に参加できる地域イベントを開催し、子どもと交流できる場を設けていきたい。

【生活環境づくりについて】

◎地域住民の交通の便の確保を図るため、これまでの取組を踏まえながら循環バスの運行を検討したい。また、住民間の情報共有・情報発信のため「大戸ちゃんねる」や広報誌の利用を検討したい。

日常生活圏域	若松第4	地区名	永和小学校区
--------	------	-----	--------

担当：若松第4地域包括支援センター

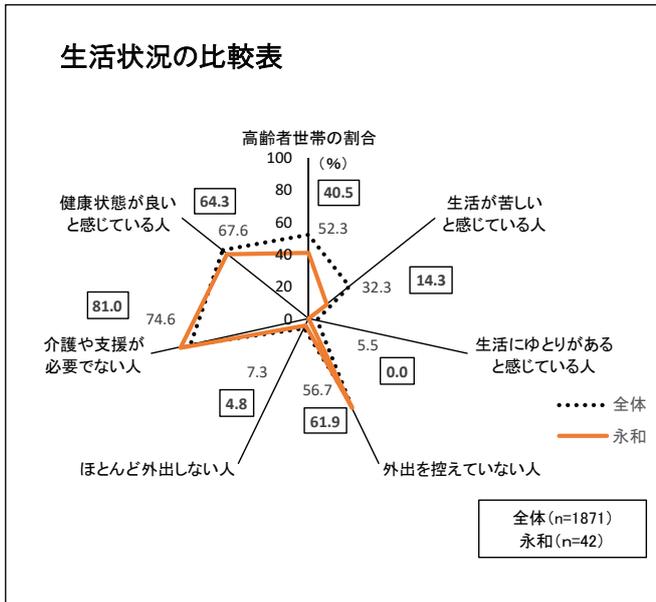
1. 地域データ

項目	永和小学校区 (R2)	永和小学校区 (R5)	(参考 R5) 全市
人口	2,080人	1,940人	113,004人
高齢者人口	792人	775人	36,538人
高齢化率	38.1%	39.9%	32.3%
町内会数(行政区)	19町内会	19町内会	506町内会
世帯数(行政区)	1,232世帯	1,302世帯	47,970世帯
要介護等認定者数	137人	137人	7,086人
内訳	(要介護3~5)	(35人)	(2,232人)
	(要介護1~2)	(59人)	(2,536人)
	(要支援1~2)	(43人)	(2,318人)
要介護等認定率	17.3%	17.7%	19.4%
事業対象者数	11人	8人	400人
民生委員・児童委員数 (方部別)	16人	16人	279人
共生福祉相談員数(方部別)	2人	2人	52人
老人クラブ数	0団体	0団体	44団体
地域サロン数	6団体	7団体	210団体

【3年前との比較状況】

- 人口は140人減少、世帯数は70世帯増加しています。
- 高齢者人口は17人減少、高齢化率は1.8ポイント上がっています。
- 要介護等認定者数は増減なし、要介護等認定率は0.4ポイント上がっています。
- 事業対象者数は3人減少しています。
- 老人クラブは増減ありません。
- 地域サロンは1団体増加しています。

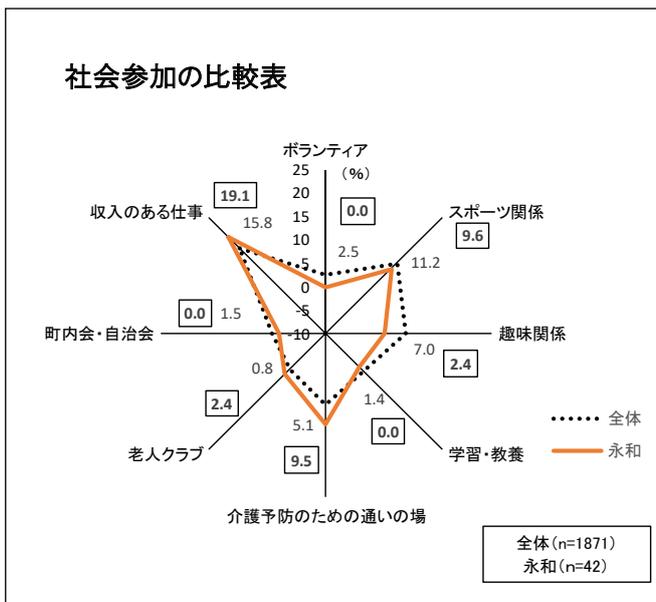
2. 永和小学区の介護予防・日常生活圏域二一ズ調査から見た地域特性



〇市北部の平坦な郊外地区で、田畑を中心とした農村地区です。幹線道路の設備が進んでいますが、公共交通機関や買い物ができる店舗は少ない地域です。農村地区であることから子世代との同居が多いと考えられ、高齢者世帯の割合は少なくなっています。

〇市の平均より少ない傾向にあり、特に生活が苦しいと感じている人が極めて少なくなっています。

〇外出を控えていない人、介護や支援が必要でない人は多くなっています。



〇社会参加についても、市の平均より少ない傾向にあり、特に趣味関係が少なくなっています。

〇介護予防のための通いの場、収入のある仕事をしている人は多くなっています。



【フレイル予防教室】

永和地区みんなで作る地区ごとコーナー ～みんなの取組 今まで・これから～

Ⅰ 永和地区の現状	<ol style="list-style-type: none"> 1 少子高齢化の進行が地域活動を困難にしている。 2 高齢者の単身世帯等が増加し、支援が必要な世帯が増加している。 3 新型コロナウイルスの影響で地域住民間の交流活動が縮小している。 4 永和地区地域づくり協議会が設立され、地域の今後のあり方が検討されている。
-----------	---

Ⅱ 永和地区スローガン	培われた絆を大切に お互いが支え合う地域をめざします
-------------	----------------------------

Ⅲ 第8期計画期間（令和3～5年度）の振り返り、取り組みと成果

<p>【高齢者自身について】 ○新型コロナウイルス感染拡大の下でも、地域サロン活動といきいき百歳体操が行われ、地域の繋がりや介護予防が図れている。なお、地域の特性として畑仕事の合間のお茶のみなど、コミュニケーションの場が確保されている。</p> <p>【地域の取組について】 ○地域では今後の地域づくりの方向性を検討し、永和地区地域づくり協議会にて、「永和地区地域づくりビジョン」を策定した。 ○歴史とコミュニティ・高齢者支援・子育ての3つの部会に分かれ活動中で、史跡の看板作り、高齢者福祉アンケート、夏祭り等を行った。 ○子供安全パトロール隊が始まり地区ごとで活動している。</p> <p>【防災対策の取組について】 ○除雪ボランティアの組織が継続している。地域づくり協議会にて、住民向けの防災講座を開催している。</p>

Ⅳ 第9期計画期間（令和6～8年度）の取り組み

<p>【高齢者自身について】 ◎集落ごとのサロン活動を推進し、大きな集会所に来られない高齢者を把握し、地域集会所でのサロンを推奨していく。また、地域サロン、いきいき百歳体操、移動スーパー等の交流の場を増やしていきたい。 ◎いきいき百歳体操を推進し、高齢者の筋力向上等を行い、介護予防を進め、新団体の立ち上げ推進も図りたい。</p> <p>【地域の取組について】 ◎永和地区地域づくり協議会で話し合いや地域活動と各団体と横のつながりを継続し、行った内容の情報発信を行いたい。 ◎ミニケア会議を開催し、区長・民生委員・共生福祉相談員等と協力し、地域の情報を共有していきたい。 ◎高齢者と子どもに対する挨拶運動、見守り運動、報告活動を町内で行いたい。また、夏祭りや収穫祭等の住民が交流できるイベントを開催したい。 ◎地域で認知症サポーター養成講座や講演会を開催し早期発見・早期相談につなげたい。 ◎ボランティア登録を周知し、ボランティアの方を増やしていきたい。</p> <p>【防災対策の取組について】 ◎永和地区地域づくり協議会による防災の出前講座等を実施していきたい。 ◎防災ミニケア会議の開催を通して、避難場所・避難所の再確認など、災害対策について話し合いを行ってほしい。 ◎助け合いの仕組みとして除雪ボランティア組織を継続し、地域住民の交流を図りたい。</p>
--

日常生活圏域	若松第4	地区名	神指小学校区
--------	------	-----	--------

担当：若松第4地域包括支援センター

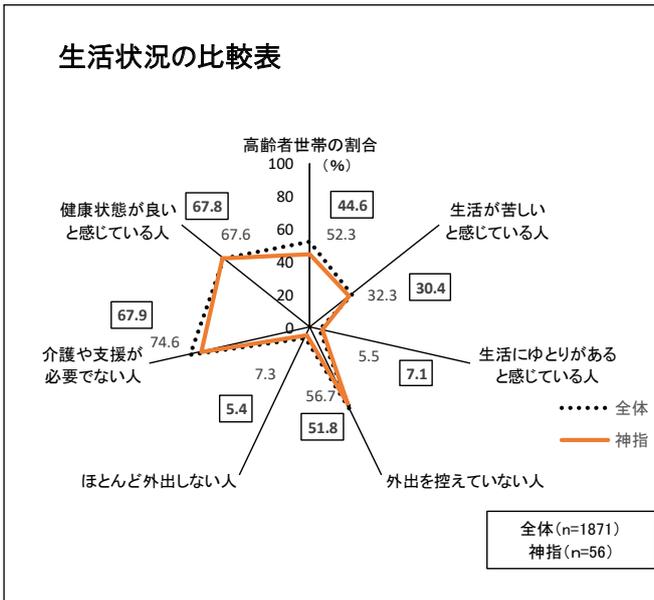
1. 地域データ

項目	神指小学校区 (R2)	神指小学校区 (R5)	(参考 R5) 全市
人口	2,639人	2,479人	113,004人
高齢者人口	1,067人	1,061人	36,538人
高齢化率	40.4%	42.8%	32.3%
町内会数 (行政区)	16町内会	16町内会	506町内会
世帯数 (行政区)	880世帯	885世帯	47,970世帯
要介護等認定者数	240人	268人	7,086人
内訳	(要介護3~5)	(89人)	(2,232人)
	(要介護1~2)	(77人)	(2,536人)
	(要支援1~2)	(74人)	(2,318人)
要介護等認定率	22.5%	25.3%	19.4%
事業対象者数	18人	14人	400人
民生委員・児童委員数 (方部別)	11人	11人	279人
共生福祉相談員数 (方部別)	1人	1人	52人
老人クラブ数	1団体	0団体	44団体
地域サロン数	12団体	12団体	210団体

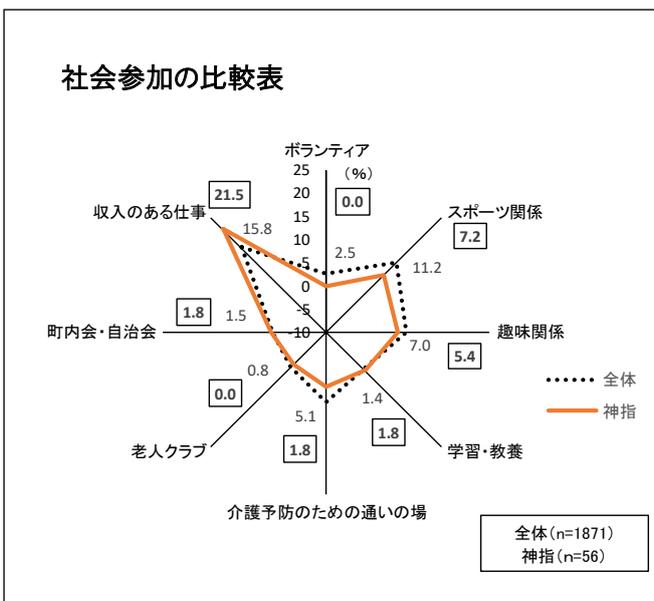
【3年前との比較状況】

- 人口は160人減少、世帯数は5世帯増加しています。
- 高齢者人口は6人減少、高齢化率は2.4ポイント上がっています。
- 要介護等認定者数は28人増加、要介護等認定率は2.8ポイント上がっています。
- 事業対象者数は4人減少しています。
- 老人クラブは1団体減少しています。
- 地域サロンは増減ありません。

2. 神指小学校区の介護予防・日常生活圏域二ーズ調査から見た地域特性



〇市西部の平坦他郊外地区で、田畑を中心とした農村地区と市街地に近い住宅地が混在している地区で、公共交通機関や買い物ができる店舗は比較的少ない地域です。
〇市の平均より少ない傾向にあり、特に高齢者世帯、外出を控えていない人、介護や支援が必要でない人で少なくなっています。



〇社会参加については、収入のある仕事をしている人が多くなっています。
〇スポーツ関係、介護予防のための通いの場へ参加している人は少なくなっています。



【いきいき百歳体操】

神指地区みんなで作る地区ごとコーナー ～みんなの取組 今まで・これから～

I 神指地区 の現状	<ol style="list-style-type: none"> 1 少子高齢化の進行が地域活動を困難にしている。 2 高齢者の単身世帯等が増加し、支援が必要な世帯が増加している。 3 新型コロナウイルスの影響で地域住民間の交流活動が縮小している。 4 水害が懸念される地域で住民の防災意識が高まっている。
---------------	---

II 神指地区 スローガン	生涯現役！！ 昔からのつながりを大事に 神指の地で支えあおう！
------------------	---------------------------------

III 第8期計画期間（令和3～5年度）の取り組みと成果

【高齢者自身について】

○新型コロナウイルス感染拡大のために参加できない人も増えたが、感染対策をしながら活動継続をしていた。また、新型コロナウイルスが5類になったことでサロン活動を再開しているサロンや老人会も多くある。また、「いきいき百歳体操」2団体の活動が継続された。

【地域の取組について】

○長年継続している町内会の親睦会がある。町内会内の祭りの実行委員、除草作業、アメシロ消毒など様々な場面で協力がなされている。

○各種団体連絡協議会を開催し、団体の代表（小中学校PTA・区長・民生委員・老人会・その他）が集まり、お互いの活動内容の理解を深めている。

○移動スーパーの導入が始まった町内がある。買い物に困っている高齢者の助けとなり、楽しい集まりの場にもなっている。

【防災対策について】

○地区の関係者とミニケア会議を行い情報共有して、関係づくりにつなげている。また、防災の出前講座を行い、防災対策の意識を強めることができた。

IV 第9期計画期間（令和6～8年度）の振り返り、取り組み

【高齢者自身について】

◎新型コロナウイルス等に対する感染症対策を行った上で、地域サロンやいきいき百歳体操などの介護予防活動を継続したい。

【地域の取組について】

◎ミニケア会議の継続により、独居、日中独居高齢者などの集まりの場を把握していく。

◎高齢者の交流会「もみじの集い」の開催や、一人暮らし高齢者へのお弁当配布活動を検討していきたい。

◎お祭り等の行事を再開し、子供・若者・高齢者の世代間交流を図りたい。

◎買い物の困難さが一層顕在化しているので、移動スーパーの利用をみんなで進めたい。

【防災対策について】

◎防災出前講座などの研修や避難訓練などを地域ごとに定期的に行っていきたい。

◎町内関係者でミニケア会議を行い、災害時に支援が必要な高齢者の把握や、高齢者の避難についての話し合いを行っていきたい。また、防災に関するチラシの回覧や、避難場所の協定を企業などと結ぶことを検討する。

日常生活圏域	若松第4	地区名	城北小学校区
--------	------	-----	--------

担当：若松第4地域包括支援センター

1. 地域データ

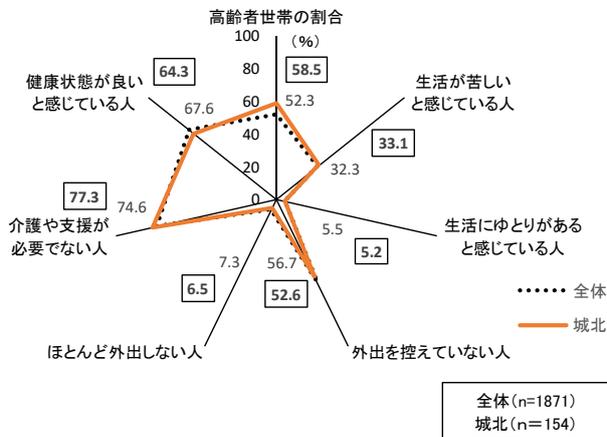
項目	城北小学校区 (R2)	城北小学校区 (R5)	(参考 R5) 全市
人口	9,628人	9,487人	113,004人
高齢者人口	3,040人	3,012人	36,538人
高齢化率	31.6%	31.7%	32.3%
町内会数 (行政区)	27町内会	27町内会	506町内会
世帯数 (行政区)	3,331世帯	3,532世帯	47,970世帯
要介護等認定者数	585人	585人	7,086人
内訳	(要介護3~5)	(168人)	(2,232人)
	(要介護1~2)	(205人)	(2,536人)
	(要支援1~2)	(212人)	(2,318人)
要介護等認定率	19.2%	19.4%	19.4%
事業対象者数	25人	24人	400人
民生委員・児童委員数 (方部別)	18人	18人	279人
共生福祉相談員数 (方部 別)	4人	4人	52人
老人クラブ数	4団体	3団体	44団体
地域サロン数	3団体	6団体	210団体

【3年前との比較状況】

- 人口は141人減少、世帯数は201世帯増加しています。
- 高齢者人口は28人減少、高齢化率は0.1ポイント上がっています。
- 要介護等認定者数は増減なし、要介護等認定率は0.2ポイント上がっています。
- 事業対象者数は1人減少しています。
- 老人クラブは1団体減少しています。
- 地域サロンは3団体増加しています。

2. 城北小学校区の介護予防・日常生活圏域二一ズ調査から見た地域特性

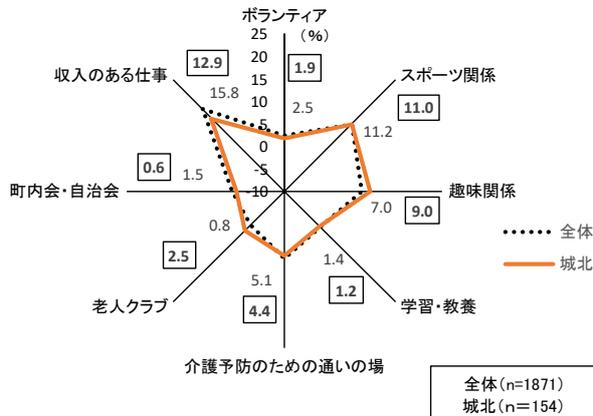
生活状況の比較表



〇市の駅前中心部の地区で、買い物ができる店や病院等も多く、公共交通機関も充実している地区です。昔からの住宅等も多く、高齢者世帯の割合が多くなっています。

〇外出を控えていない人、健康状態が良いと感じている人は少なくなっています。

社会参加の比較表



〇社会参加について、概ね市の平均と同じ傾向となっていますが、趣味関係、老人クラブへ参加している人がわずかに多く、収入のある仕事をしている人はわずかに少なくなっています。



【サロン会】

城北地区みんなで作る地区ごとコーナー ～みんなの取組 今まで・これから～

I 城北地区 の現状	<ol style="list-style-type: none"> 1 少子高齢化の進行が地域活動を困難にしている。 2 高齢者の単身世帯等が増加し、支援が必要な世帯が増加している。 3 地域住民間や事業所との交流活動を様々な形で展開している。
---------------	--

II 城北地区 スローガン	城北地区のみんながつながる輪。笑顔でお互い様の町づくりをしよう！
------------------	----------------------------------

III 第8期計画期間（令和3～5年度）の振り返り、取り組みと成果

【高齢者自身について】

○老人会・サロン活動、城北コミセンの高齢者の活動が盛んに行われている。
○集会所がない地区でも、教会やお寺の協力で、新しいサロンやいきいき百歳体操の団体が出来ている。

【地域の取組について】

○コロナ禍で中止していた地域行事を再開している。町内によっては日帰りバスツアー、花見、花火大会を再開している。子供の参加もあり、世代間交流が図れている。
○ご近所の見守りやゴミ捨ての手伝いや除雪ボランティア、支援事業所での見守りや声掛けがある。

IV 第9期計画期間（令和6～8年度）の取り組み

【高齢者自身について】

◎高齢者の介護予防として、いきいき百歳体操の推進や介護保険サービスの運動支援を行うデイサービスを活用していきたい。また、教会やお寺、マンション等を活用し、新たな集まれる場づくりを行いたい。

◎サロン会や老人会等に対し、介護事業所による出前講座を周知し、理学療法士・作業療法士・栄養士等による体操や食事等の指導を行い、高齢者の介護予防を促進したい。

【地域の取組について】

◎地域活動の担い手を育成する。ボランティア学園に参加する方法も検討し、地域のリーダーを育成していきたい。

◎子供会・婦人会・青年団・老人会との世代間交流を行っていく。地域活動への若い人の参加を推進していきたい。お花見やお祭り等の町内行事を継続し、地域の繋がりを深めていきたい。

◎高齢者を支援してくれるお店などに働きかけ、ネットワークを作り、認知症サポーター養成講座などを行いたい。

◎金川町コミュニティバスは状況に応じて運行コースを変更し、高齢者の病院受診や買物、食事会など外出の足として利用していきたい。

【防災対策について】

◎防災に関する出前講座や消火器訓練などを継続し、年代を問わず防災意識を高めていきたい。若い世代に向けてデジタルIT技術（VR）を使った体験研修なども検討する。

◎災害時要支援者名簿の活用について、市と連携し、町内で防災をテーマとしたミニケア会議で検討していきたい。

日常生活圏域	若松第4	地区名	日新小学校区
--------	------	-----	--------

担当：若松第4地域包括支援センター

1. 地域データ

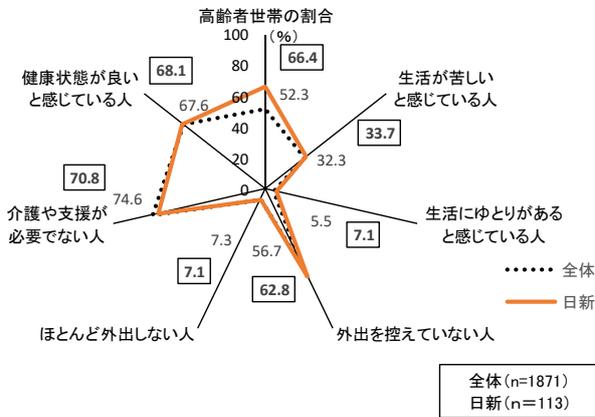
項目	日新小学校区 (R2)	日新小学校区 (R5)	(参考 R5) 全市
人口	6,734人	6,475人	113,004人
高齢者人口	2,231人	2,222人	36,538人
高齢化率	33.1%	34.3%	32.3%
町内会数 (行政区)	30町内会	30町内会	506町内会
世帯数 (行政区)	3,279世帯	3,220世帯	47,970世帯
要介護等認定者数	463人	465人	7,086人
内訳	(要介護3~5)	(124人)	(2,232人)
	(要介護1~2)	(155人)	(2,536人)
	(要支援1~2)	(184人)	(2,318人)
要介護等認定率	20.8%	20.9%	19.4%
事業対象者数	17人	25人	400人
民生委員・児童委員数 (方部別)	21人	21人	279人
共生福祉相談員数 (方部別)	4人	4人	52人
老人クラブ数	3団体	2団体	44団体
地域サロン数	6団体	11団体	210団体

【3年前との比較状況】

- 人口は259人減少、世帯数は59世帯減少しています。
- 高齢者人口は9人減少、高齢化率は1.2ポイント上がっています。
- 要介護等認定者数は2人増加、要介護等認定率は0.1ポイント上がっています。
- 事業対象者数は8人増加しています。
- 老人クラブは1団体減少しています。
- 地域サロンは5団体増加しています。

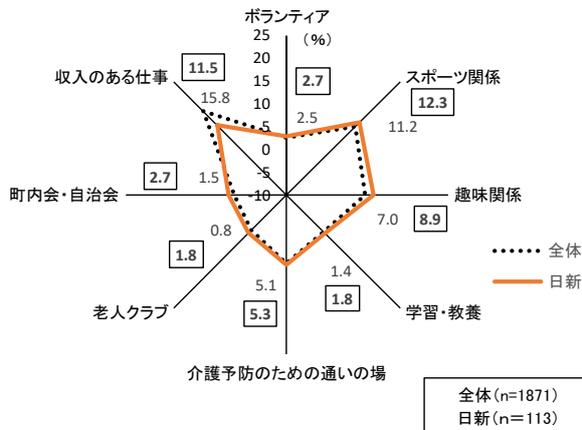
2. 日新小学校区の介護予防・日常生活圏域二一ズ調査から見た地域特性

生活状況の比較表



〇市の中心部の地区で、買い物ができる店や病院等も多く、公共交通機関も比較的充実している地区と言えます。しかし、昔からの住宅等が多く高齢者世帯の割合が多くなっています。〇外出を控えていない人が多くなっています。〇介護や支援が必要でない人は少なくなっています。

社会参加の比較表



〇社会参加については、概ね市の平均と同じ傾向となっていますが、収入のある仕事をしている人は少なくなっています。



【いきいき百歳体操】

日新地区みんなで作る地区ごとコーナー ～みんなの取組 今まで・これから～

I 日新地区の現状	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢化の進行や高齢者の単身世帯等が増加し、支援が必要な方が増加している。 2 新型コロナウイルスの影響で地域活動が縮小しているが、高齢者と子どもの活動を一緒に行う事で世代間交流と地域の活性化も図れている。 3 水害等の発生が心配され、住民の防災対策が進められている。
-----------	---

II 日新地区スローガン	健康寿命で百歳をめざそう！ 日新地区！
--------------	---------------------

III 第8期計画期間（令和3～5年度）の振り返り、取り組みと成果
<p>【高齢者自身について】 ○介護予防の意識が高く、「いきいき百歳体操」の団体が増えている。また、地域サロンやウォーキング、ラジオ体操などを通して高齢者の集まる場や活動が多い。つながりづくりポイント事業に加入している団体も多く、良い相乗効果がある。</p> <p>【地域の取組について】 ○一人暮らしの高齢者に対しての声掛け見守りがあり、昔から長く町内に住んでいる方が多く、さりげない目配り・気配りがある。 ○地区社会福祉協議会が立ち上がり、補助金を活用し地区の活動支援に繋げている。 ○地区内で移動スーパーが拡充されてきている。</p> <p>【防犯・防災対策について】 ○区長会で緊急連絡網を作り、災害時などに区長会長からの連絡網が機能し、また、区長会と民生児童委員との話し合いの場もあり連携も図れている。 ○一人暮らしの高齢者の除雪を担当を決めて行っている町内会がある。また、町内会の有志で登校時の見守りがあり、町内会役員で夜廻りも行っている。</p>

IV 第9期計画期間（令和6～8年度）の取り組み
<p>【高齢者自身について】 ◎サロン会やいきいき百歳体操は、「誰が参加しても良く、皆で仲良く活動をする」という意識を持ち、参加者の垣根を無くし、新たな参加者を募っていく。</p> <p>【地域の取組について】 ◎区長・民生委員・共生福祉相談員等の地域関係者と情報交換や協議が図れるよう、ケア会議とミニケア会議を開催し、心配な高齢者や地域の情報共有、集まりの場所づくり、地域資源発掘等を行いたい。 ◎地区社会福祉協議会と連携し、地域の課題解決の為の取り組みを検討していく。 ◎移動スーパーが必要な町内に対し、移動スーパーの導入や駐車スペースの検討を行う。 ◎世代間交流・介護予防・集いの場として、町内でラジオ体操を行う。また、世代間の交流を深め、子どもたちに伝統を伝えられるよう、コロナで中止された地域のお祭り等を再開していきたい。 ◎ヤングケアラーの支援として、学校との情報共有を行っていききたい。</p> <p>【防犯・防災対策について】 ◎町内でミニケア会議を開催し、単身世帯・高齢者世帯の情報共有、防災マップの情報共有、避難経路と方法を検討する。また、一時避難先として福祉事業所の協力や、垂直避難ができる高い団地やアパートの建物への協力体制を検討する。</p>

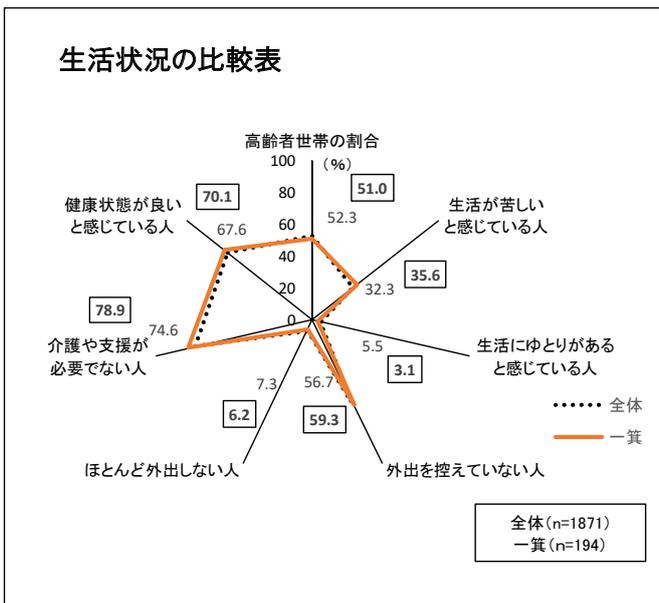
日常生活圏域	若松第5	地区名	一箕・松長小学校区
--------	------	-----	-----------

担当：若松第5地域包括支援センター

1. 地域データ

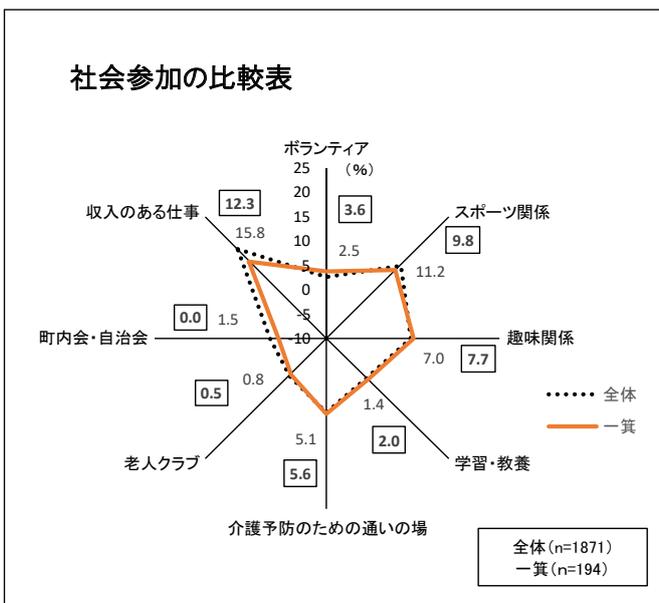
項目	一箕小学校区 (R5)	松長小学校区 (R5)	(参考 R5) 全市	
人口	13,175人	4,783人	113,004人	
高齢者人口	3,515人	1,626人	36,538人	
高齢化率	26.7%	34.0%	32.3%	
町内会数(行政区)	57町内会		506町内会	
世帯数(行政区)	7,439世帯		47,970世帯	
要介護等認定者数	540人	364人	7,086人	
内訳	(要介護3~5)	(143人)	(188人)	(2,232人)
	(要介護1~2)	(206人)	(100人)	(2,536人)
	(要支援1~2)	(191人)	(76人)	(2,318人)
要介護等認定率	15.4%	22.4%	19.4%	
事業対象者数	40人	17人	400人	
民生委員・児童委員数(方部別)	24人		279人	
共生福祉相談員数(方部別)	4人		52人	
老人クラブ数	4団体	0団体	44団体	
地域サロン数	21団体	9団体	210団体	
項目	一箕小学校区 (R2)	松長小学校区 (R2)	(参考 R2) 全市	
人口	13,426人	5,105人	117,299人	
高齢者人口	3,401人	1,571人	36,399人	
高齢化率	25.3%	30.8%	31.0%	
町内会数(行政区)	56町内会		506町内会	
世帯数(行政区)	6,928世帯		46,889世帯	
要介護等認定者数	530人	363人	7,002人	
内訳	(要介護3~5)	(128人)	(184人)	(2,168人)
	(要介護1~2)	(215人)	(94人)	(2,553人)
	(要支援1~2)	(187人)	(85人)	(2,281人)
要介護等認定率	15.6%	23.1%	19.2%	
事業対象者数	53人	20人	414人	
民生委員・児童委員数(方部別)	24人		279人	
高齢者福祉相談員数(方部別)	4人		52人	
老人クラブ数	4団体	1団体	59団体	
地域サロン数	18団体	6団体	168団体	

2—①. 一箕小学校区の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から見た地域特性



〇市の北東部の中心部に近い地区で、比較的新興住宅が多い地区となっており、高齢者世帯の割合が高くなっています。買い物ができる店や病院等はあるものの、車での移動を前提とした店等が多い地区です。

〇概ね市の平均と同じ傾向となっていますが、生活が苦しいと感じている人、介護や支援が必要でない人は多くなっています。



〇社会参加についても、概ね市の平均と同じ傾向となっていますが、収入のある仕事をしている人は少なくなっています。

【3年前との比較状況】

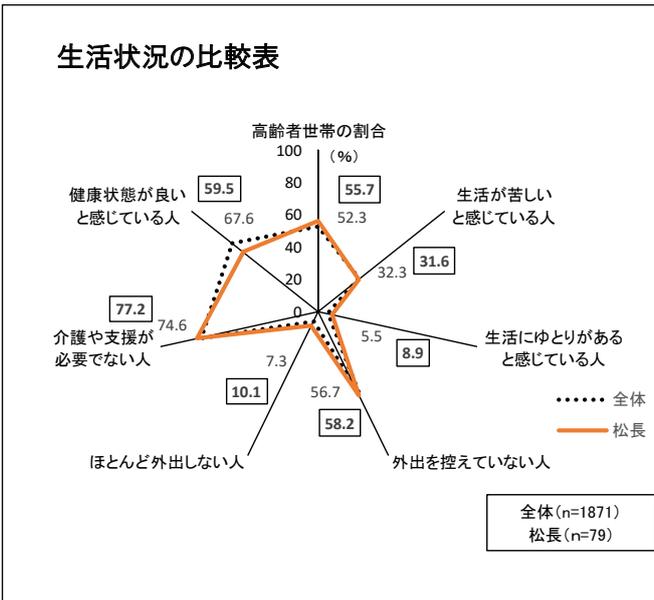
【一箕小学校地区】

- 人口は 251 人減少しています。
- 高齢者人口は 114 人増加、高齢化率は 1.4 ポイント上がっています。
- 要介護等認定者数は 10 人増加、要介護等認定率は 0.2 ポイント下がっています。
- 事業対象者数は 13 人減少しています。
- 老人クラブは増減ありません。
- 地域サロンは 3 団体増加しています。

【松長小学校区】

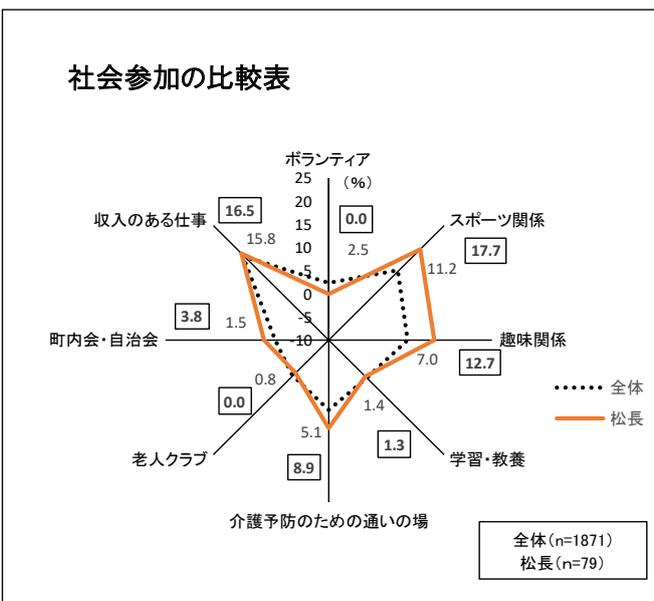
- 人口は 322 人減少しています。
- 高齢者人口は 55 人増加、高齢化率は 3.2 ポイント上がっています。
- 要介護等認定者数は 1 人増加、要介護等認定率は 0.7 ポイント下がっています。
- 事業対象者数は 3 人減少しています。
- 老人クラブは 1 団体減少しています。
- 地域サロンは 3 団体増加しています。

2-②. 松長小学校区の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から見た地域特性



〇市の北東部の丘陵地に開かれた新興住宅地区です。市街地から若干離れており、車での移動を前提とした地域で、買い物ができる店や病院等は少ない環境です。高齢者世帯の割合が市の平均より多いのは核家族世帯が多いものと考えられます。

〇概ね市の平均と同じ傾向となっていますが、生活にゆとりがあると感じている人が多く、健康状態が良いと感じている人は少なくなっています。



〇社会参加については、スポーツ関係、趣味関係、介護予防のための通いの場に参加している人が多くなっています。



【地域ケア会議】

一箕・松長地区みんなで作る地区ごとコーナー ～みんなの取組 今まで・これから～

I 一箕・松長地区の現状	<ol style="list-style-type: none"> 1 少子高齢化の進行が地域活動の継続を困難にしてきている。 2 高齢者の単身世帯等が増え、支援が必要な世帯が増加しており、地区の役員も高齢化し、引継ぎも難しくなっている。 3 新型コロナウイルスの影響で地区の行事が開催できず、子ども会の縮小もあり、地域住民間の交流活動が停滞している。
--------------	--

II 一箕・松長地区スローガン	明るく 楽しく 元気よく 絆で結ぶまちづくり
-----------------	------------------------

III 第8期計画期間（令和3～5年度）の振り返り、取り組みと成果

【高齢者自身について】

○新型コロナウイルスの影響もあり、「地域サロン」や「老人クラブ」に参加できない人も増え、活動を中止した団体もあった。一方で介護予防への気運は着実に高まっており、期間中「いきいき百歳体操」2団体の活動が継続できた。

○買い物、通院、除雪、ゴミ出しなどに不便を感じている人が多く、協力し合っているところもあるが不十分である。買い物では、販売エリアや“ミニマル”などの情報が住民に行き届いていない現状がある。

【地域の取組について】

○町内の行事が、区長や役員の高齢化、後継者不足、住民の協力も得にくいなどの理由により開催が難しくなっていた。当地区では、今後の地域づくりの方向性「各種団体連絡協議体」を立ち上げた。

【防災対策について】

○災害への備えは、なかなか進まない状況にあるが、自主防災組織の立ち上げもあった。

IV 第9期計画期間（令和6～8年度）の取り組み

【高齢者自身について】

◎介護予防推進のため「地域サロン」や「いきいき百歳体操」を活性化していきたい。

◎買い物、通院、除雪、ゴミ出しなど、生活上の困りごとを解決するための情報発信の仕方や、問題解決のための新しい取り組みを検討していく必要がある。

【地域の取組について】

◎世代間交流ができる地域行事を順次再開し、住民間交流の促進を図り、高齢者の見守りを進めていきたい。また地域の「ふれあい昼食会」の在り方や内容を見直していきたい。

◎支援が必要な高齢者の情報の共有、例えば町内連絡網の作成を検討し、町内単位で高齢者世帯の安否確認に取り組んでいきたい。

◎地域全体で協力し、「各種団体連絡協議体」を立ち上げ、住民主体で地域の事を考えていく。

【生活環境づくりについて】

◎免許返納者の移手段の確保について地域で支える仕組みづくりを検討していきたい。

【防災対策について】

◎災害への備えを進めるため、自主防災組織を広げていくとともに、防災訓練開催に向けて、町内会単位でハザードマップの見方や活用方法についての説明会を開催する。その中で、高齢者や障がいのある方も含めた避難方法を確認していく。

日常生活圏域	若松第5	地区名	湊小学校区
--------	------	-----	-------

担当：若松第5地域包括支援センター

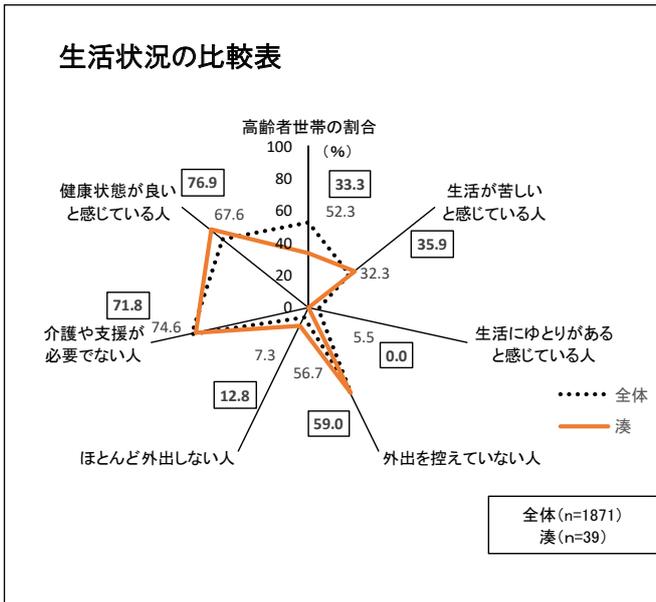
1. 地域データ

項目	湊小学校区 (R2)	湊小学校区 (R5)	(参考 R5) 全市
人口	1,640人	1,518人	113,004人
高齢者人口	771人	763人	36,538人
高齢化率	47.0%	50.3%	32.3%
町内会数(行政区)	16町内会	16町内会	506町内会
世帯数(行政区)	501世帯	495世帯	47,970世帯
要介護等認定者数	197人	188人	7,086人
内訳	(要介護3～5)	(80人)	(2,232人)
	(要介護1～2)	(52人)	(2,536人)
	(要支援1～2)	(65人)	(2,318人)
要介護等認定率	25.6%	24.6%	19.4%
事業対象者数	31人	16人	400人
民生委員・児童委員数 (方部別)	11人	11人	279人
共生福祉相談員数(方部別)	2人	2人	52人
老人クラブ数	4団体	4団体	44団体
地域サロン数	13団体	11団体	210団体

【3年前との比較状況】

- 人口は122人減少、世帯数は6世帯減少しています。
- 高齢者人口は8人減少、高齢化率は3.3ポイント上がっています。
- 要介護等認定者数は9人減少、要介護等認定率は1.0ポイント下がっています。
- 事業対象者数は15人減少しています。
- 老人クラブは増減ありません。
- 地域サロンは2団体減少しています。

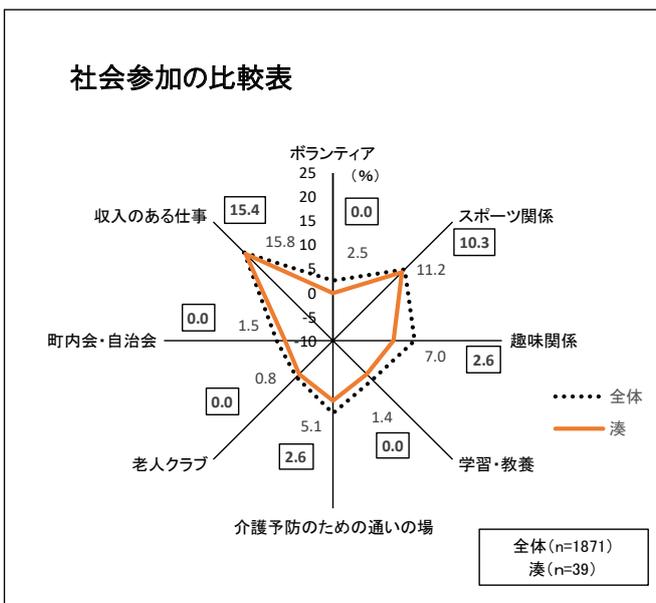
2. 湊小学校区の介護予防・日常生活圏域二一ズ調査から見た地域特性



○市中心部から山地を挟んだ市東部の郊外地区で、田畑を中心とした農村地区です。市街地から距離があり、公共交通機関や買い物ができる店舗は少ない地域です。子世代との同居が多いものと考えられ、高齢者世帯の割合が少なくなっています。

○生活が苦しいと感じている人、ほとんど外出しない人、健康状態が良いと感じている人が多くなっています。

○生活にゆとりがあると感じている人は少なくなっています。



○社会参加については、市の平均より少ない傾向にあり、特に趣味関係へ参加している人が少なくなっています。



【地域ケア会議】

湊地区みんなで作る地区ごとコーナー ～みんなの取組 今まで・これから～

I 湊地区の現状	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢化の進行や高齢者の単身世帯等が増加し、見守り等の支援が必要な方が増加している一方で、「役員等に新しい担い手がない」「子育て世代との交流が少ない」「見守り支援体制が難しい」といった地域課題が進行してきている。 2 新型コロナウイルスの影響で地域行事や集落の作業の開催が難しくなり、地域住民・世代間の交流活動が縮小している。 3 移動や防災など地域特有の課題が顕在化しており対策が進められている。
----------	--

II 湊地区スローガン	世代を超えて元気で安心して暮らせる みなと！
-------------	------------------------

III 第8期計画期間（令和3～5年度）の振り返り、取組みと成果

【高齢者自身について】

○新型コロナウイルスの影響などで、老人会加入者の減少が見られ、地域サロンに行けない高齢者、特に男性高齢者の社会参加が乏しい状況だった。一方で地域サロン活動やいきいき百歳体操団体が継続しており、活動を通して交流が活性化した地区もあった。

○地域のつながりが強く、お互いに協力し合っているが、それゆえに周囲に遠慮し相談できない人もいる。困っている人が気兼ねなく相談できる仕組みづくりが必要。

【地域の取組について】

○「みなとバス」を利用しながら地域交流の輪が続いており、75歳以上の高齢者への「おせち料理の配布」継続や「よってカフェ」の立ち上げができたり、ICT機器を学ぶ機会となる「スマートフォン教室」を開催した。

【防災の取組について】

○単身高齢者世帯の除雪や見守り、防災の取組を推進するため、全地区でミニケア会議を開催し、避難所や避難時の行動、危険個所の確認ができた。

IV 第9期計画期間（令和6～8年度）の取組み

【高齢者自身について】

◎高齢者の相談窓口として、湊町の福祉機関と連携し「湊町の福祉相談窓口」を周知する。窓口の周知方法を検討し、高齢者に有益な情報を発信していく。

【地域の取組について】

◎助け合いの仕組みづくりとして、支援が必要な高齢者の情報共有を進めるとともに、「みなと”たすけ愛”サービス」のサービス内容をリニューアルして再開する。

◎子どもや若い世代と交流するイベントを開催し、交流機会の少ない高齢男性が活躍できる内容を検討したい。

【生活環境づくりについて】

◎今日的な課題である「ICT機器の活用」「空き家の有効活用」に対応するために、みなとチャンネルやスマートフォンのアプリ等を有効に活用する手法を検討し、また、空き家の活用や移住者の受け入れ体制を整備していきたい。

【防災の取組について】

◎災害への備えを進めるため、自主防災組織を広げていくとともに、防災訓練開催に向けて、町内会単位でハザードマップの見方や活用方法についての説明会を開催する。その中で、高齢者や障がいのある方も含めた避難方法を確認していく。

日常生活圏域	北会津	地区名	荒館・川南小学校区
--------	-----	-----	-----------

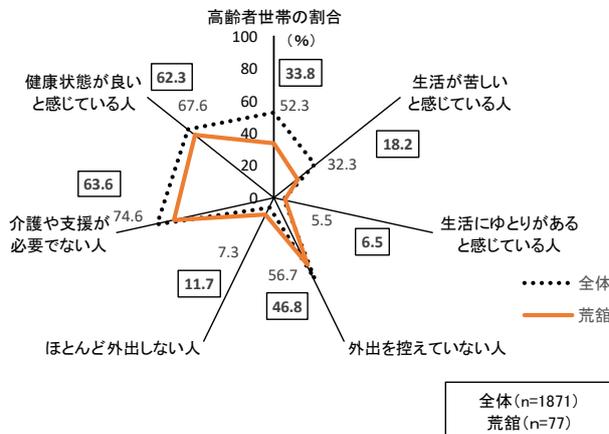
担当：北会津地域包括支援センター

1. 地域データ

項目		荒館小学校区 (R5)	川南小学校区 (R5)	(参考 R5) 全市
人口		4,653人	2,152人	113,004人
高齢者人口		1,498人	865人	36,538人
高齢化率		32.2%	40.2%	32.3%
町内会数(行政区)		50町内会		506町内会
世帯数(行政区)		2,219世帯		47,970世帯
要介護等認定者数		243人	193人	7,086人
内訳	(要介護3~5)	(69人)	(107人)	(2,232人)
	(要介護1~2)	(93人)	(43人)	(2,536人)
	(要支援1~2)	(81人)	(43人)	(2,318人)
要介護等認定率		16.2%	22.3%	19.4%
事業対象者数		16人	6人	400人
民生委員・児童委員数(方部別)		19人		279人
共生福祉相談員数(方部別)		3人		52人
老人クラブ数		0団体	0団体	44団体
地域サロン数		7団体	1団体	210団体
項目		荒館小学校区 (R2)	川南小学校区 (R2)	(参考 R2) 全市
人口		4,766人	2,272人	117,299人
高齢者人口		1,455人	840人	36,399人
高齢化率		30.5%	37.0%	31.0%
町内会数(行政区)		50町内会		506町内会
世帯数(行政区)		2,128世帯		46,889世帯
要介護等認定者数		245人	196人	7,002人
内訳	(要介護3~5)	(66人)	(108人)	(2,168人)
	(要介護1~2)	(92人)	(48人)	(2,553人)
	(要支援1~2)	(87人)	(40人)	(2,281人)
要介護等認定率		16.8%	23.3%	19.2%
事業対象者数		27人	13人	414人
民生委員・児童委員数(方部別)		19人		279人
高齢者福祉相談員数(方部別)		3人		52人
老人クラブ数		1団体	0団体	59団体
地域サロン数		5団体	1団体	168団体

2-①. 荒館小学校区の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から見た地域特性

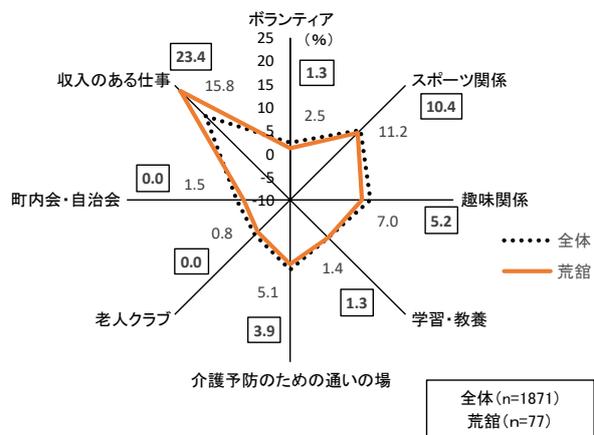
生活状況の比較表



〇市北西部の平坦な郊外地区で、田畑を中心とした農村地区です。車での移動を前提としており、公共交通機関や買い物ができる店舗は少ない地域です。農村地区であることから子世代との同居が多いと考えられ、高齢者世帯の割合は少なくなっています。

〇市の平均より少ない傾向となっており、特に生活が苦しいと感じている人、外出を控えている人、介護や支援が必要でない人、健康状態が良いと感じている人が少なくなっています。

社会参加の比較表



〇社会参加については、概ね市の平均と同じ傾向となっていますが、収入のある仕事をしている人は極めて多くなっています。

【3年前との比較状況】

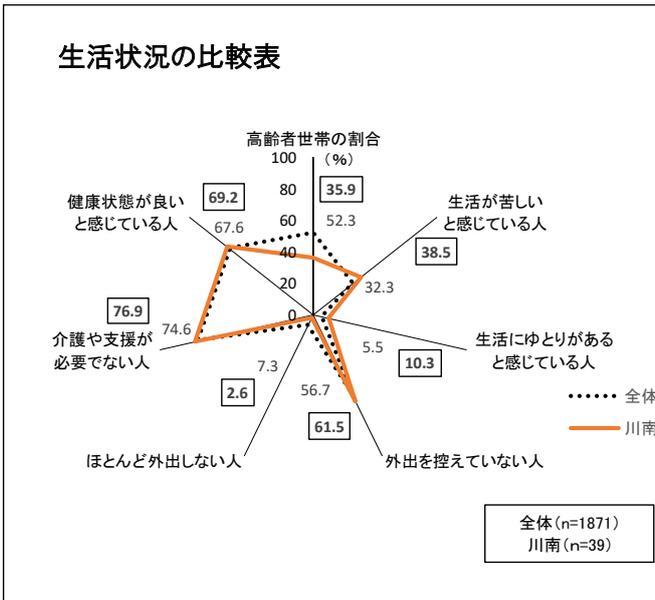
【荒館小学校区】

- ・人口は 113 人減少しています。
- ・高齢者人口は 43 人増加、高齢化率は 1.7 ポイント上がっています。
- ・要介護等認定者数は 2 人減少、要介護等認定率は 0.6 ポイント下がっています。
- ・事業対象者数は 11 人減少しています。
- ・老人クラブは 1 団体減少しています。
- ・地域サロンは 2 団体増加しています。

【川南小学校区】

- ・人口は 120 人減少しています。
- ・高齢者人口は 25 人増加、高齢化率は 3.2 ポイント上がっています。
- ・要介護等認定者数は 3 人減少、要介護等認定率は 1.0 ポイント下がっています。
- ・事業対象者数は 7 人減少しています。
- ・老人クラブは増減ありません。
- ・地域サロンは増減ありません。

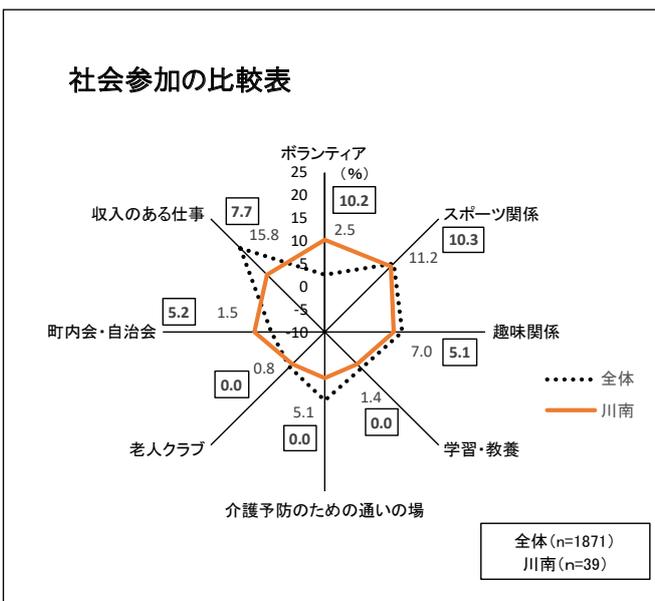
2-②. 川南小学校区の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から見た地域特性



〇市北西部の平坦な郊外地区で、田畑を中心とした農村地区です。車での移動を前提としており、公共交通機関や買い物ができる店舗は少ない地域です。農村地区であることから子世代との同居が多いと考えられ、高齢者世帯の割合は少なくなっています。

〇生活が苦しいと感じている人が多い一方、生活にゆとりがあると感じている人も多くなっています。

〇外出を控えていない人が多く、ほとんど外出しない人は少なくなっています。



〇社会参加については、市の平均とは異なる傾向にあり、ボランティア、町内会・自治会に参加している人が多くなっています。

〇介護予防のための通いの場、収入のある仕事をしている人は少なくなっています。



【いきいき百歳体操】

北会津地区みんなで作る地区ごとコーナー ～みんなの取組 今まで・これから～

I 北会津地区の現状	<ol style="list-style-type: none"> 1 少子高齢化が一層進行し、地域活動の継続を困難にしてきている。 2 高齢者の単身世帯等が増加し、支援が必要な世帯が増加していることに伴い老々介護を心配する住民が出てきている。 3 新型コロナウイルスの影響で地域の行事開催が難しくなり、地域活動に参加しない方が増えた結果、住民・世代間の交流活動が縮小し、地域全体の関係性も希薄となってきている。
------------	--

II 北会津地区スローガン	できることから 地域のために 共に築く未来へ
---------------	------------------------

III 第8期計画期間（令和3～5年度）の振り返り、取り組みと成果

【高齢者自身について】

○新型コロナウイルスの影響の広がりの中にあっても介護予防の意識は高まりを見せ、「いきいき百歳体操」や「地域サロン」の立ち上げも見られた。

○障がい者福祉施設の利用者と住民が、一緒に青空ラジオ体操を実施するなどのつながりができてきている。

【防災対策について】

○防災の意識も徐々に浸透してきており、自主防災組織が構築された地区やSOSネットワーク模擬訓練が実施できた地区もあった。

IV 第9期計画期間（令和6～8年度）の取り組み

◎今後、地域活動の視点として「ひと」、「暮らし」、「産業」、「環境」の4つの切り口で「見える化」し、各地区のミニケア会議を通して「顔の見える関係」を作り、地域づくり・人とのつながりを進めていきたい。

【地域の取組について】

◎地域活動への高齢者参加を広げることや高齢者の見守り体制を構築していきたい。認知症への理解をさらに広げるため「認知症SOS模擬訓練」を継続していく。

◎北会津地域の文化・伝統・風習を次代に引き継ぐとともに、住民みんなで楽しめる行事を開催したい。併せて、支援が必要な高齢者等へのボランティア活動を広めていきたい。

【防災対策について】

◎災害時や緊急時への備えとして地域単身高齢者世帯の緊急連絡先に関する情報共有や「あんしんバトン」の取り組みを進めていきたい。

日常生活圏域	河東	地区名	河東学園区
--------	----	-----	-------

担当：河東地域包括支援センター

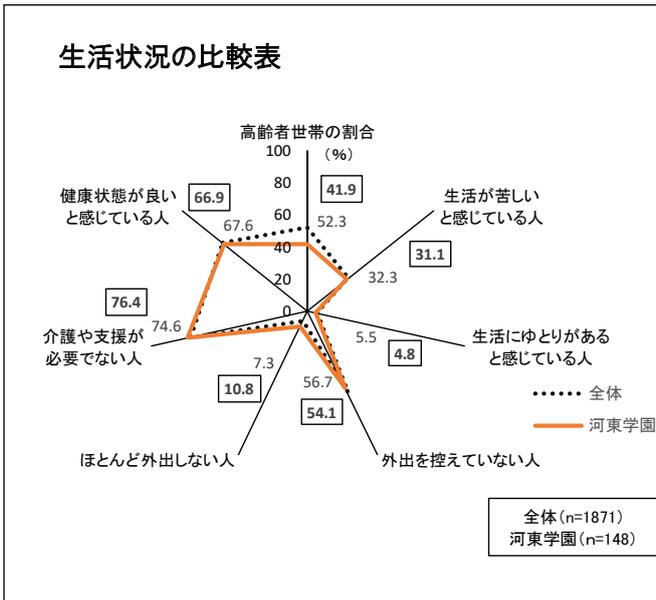
1. 地域データ

項目	河東学園区 (R2)	河東学園区 (R5)	(参考 R5) 全市
人口	7,964人	7,611人	113,004人
高齢者人口	2,727人	2,773人	36,538人
高齢化率	34.2%	36.4%	32.3%
町内会数(行政区)	53町内会	53町内会	506町内会
世帯数(行政区)	2,493世帯	2,505世帯	47,970世帯
要介護等認定者数	469人	485人	7,086人
内訳	(要介護3～5)	(130人)	(2,232人)
	(要介護1～2)	(196人)	(2,536人)
	(要支援1～2)	(143人)	(2,318人)
要介護等認定率	17.2%	17.5%	19.4%
事業対象者数	32人	31人	400人
民生委員・児童委員数 (方部別)	23人	23人	279人
共生福祉相談員数(方部 別)	3人	3人	52人
老人クラブ数	12団体	10団体	44団体
地域サロン数	16団体	21団体	210団体

【3年前との比較状況】

- 人口は353人減少、世帯数は12世帯増加しています。
- 高齢者人口は46人増加、高齢化率は2.2ポイント上がっています。
- 要介護等認定者数は16人増加、要介護等認定率は0.3ポイント上がっています。
- 事業対象者数は1人減少しています。
- 老人クラブは2団体減少しています。
- 地域サロンは5団体増加しています。

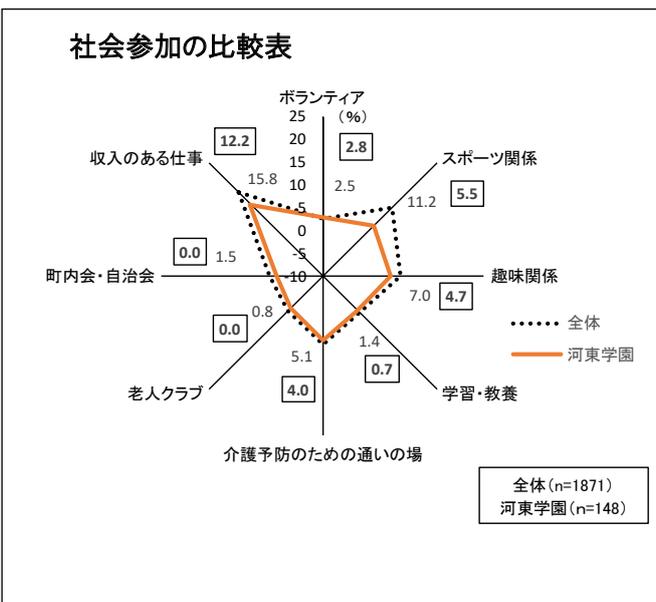
2. 河東学園区の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から見た地域特性



○市北東部の地区で、合併前の旧町を一つの地区としています。その結果、地区内に農村地区や住宅地区、山間地区など様々なエリアがあり、エリアによって比較的交通の便が良く、買い物ができる店舗が多いエリアや、交通の便も買い物に不便なエリアもある地区となっています。

○農村地区が多いことから子世代との同居が多いと考えられ、高齢者世帯は少なくなっています。

○生活が苦しいと感じている人が少なくなっています。



○社会参加については、スポーツ関係や趣味関係、収入のある仕事をしている人が少なくなっています。



【介護者交流会 男の料理教室】

河東地区みんなで作る地区ごとコーナー ～みんなの取組 今まで・これから～

Ⅰ 河東地区の現状	<ol style="list-style-type: none"> 1 少子高齢化が進行し、集落の役員や行事の運営委員、サロン活動等の担い手が減りつつある。 2 高齢者の単身世帯が増え、移動や除雪が難しくなったり、物忘れの住民が増えている。 3 新型コロナウイルスの影響で開催できなかった地域行事が再開してきた。 4 健康や認知症に関する住民意識が高まってきた。一方防災意識はなかなか高まらない。
-----------	---

Ⅱ 河東地区スローガン	いつかはみんな高齢者 いきいき暮らせる河東！
-------------	------------------------

Ⅲ 第8期計画期間（令和3～5年度）の振り返り、取り組みと成果

【高齢者自身について】

○新型コロナウイルスへの感染防止から高齢者の交流が減り、互いの安否確認がしにくくなった。

○「出張カフェ」や「いきいき百歳体操」、「健幸スクール」、新たに始まった「青空体操」など、複数の事業に参加する高齢者もあり、住民の二極化が進んだ。「つながりづくりポイント事業」も社会参加促進に効果を発揮した。

【地域での取り組みについて】

○新型コロナウイルスの影響で、地域の行事で開催できないものが多かった。他方感染者を出さずに地域サロン活動を継続できた地域もあった。

○認知症カフェへの参加、認知症にやさしい声かけ訓練を通して、認知症に対する理解が広まった。

【生活環境づくりについて】

○歩いていける所に商店がない地域の一部で、住民の移動販売車誘致の希望が実現した。

Ⅳ 第9期計画期間（令和6～8年度）の取り組み

【高齢者自身について】

○身近な所でお茶のみ感覚で集まれるカフェの開催や、地域サロン等に参加し、見守りや交流、介護予防ができるようにしたい。

【地域の取り組みについて】

○認知症に対する理解を進めるために、多くの住民が認知症カフェや認知症にやさしい声かけ訓練に参加する。

【生活環境づくりについて】

○移動販売車の利用を広げるなど車が無くても移動や買物ができる取り組みを進めたい。

○空き家の増加に伴う地域環境の悪化について、行政等との情報共有を進めたい。

【防災対策について】

○災害に備え、区長、消防団、地域包括支援センターとの連携を進める。

○ゴミ出しや除雪など近隣の手伝いを広め、災害時に助け合う土壌をつくりたい。

○高齢者に対する災害時の周知などを進めていきたい。

＜地区の目指す姿＞

支え合い、助け合って住みやすい地域へ

まずは健康でいられるよう一人ひとりが頑張ろう！

介護保険料と介護給付費等の推計資料

1.第1号被保険者の保険料算出説明書

第1号被保険者の保険料基準額(月額)算出 説明書

基礎となる給付費等			
介護保険標準給付費見込額 34,887,942,331円	A	第1号被保険者負担分相当額 23% 8,024,226,736円	(負担割合) ①=A×23%
地域支援事業費 2,869,601,640円	B	第1号被保険者負担分相当額 23% 660,008,377円	(負担割合) ②=B×23%
		合計:第1号被保険者負担分相当額 8,684,235,113円	③=①+②
		全国平均の調整交付金見込額 5% 1,839,990,749円	(交付割合) ④
		本市の調整交付金見込額 5.45% 2,003,821,000円	(交付割合) ⑤
		本市の保険者機能強化推進交付金等見込額 30,000,000円	⑥
		差し引き第1号被保険者負担分相当額 8,490,404,862円	⑦=③+④-⑤-⑥
		財政安定化基金拠出金見込額 0% 円	(拠出率) ⑧
		第9期介護給付費準備基金取崩額 610,000,000円	⑨
		準備基金取崩額の影響額 511円	
		保険料収納必要額 7,880,404,862円	⑩=⑦+⑧-⑨
		保険料賦課総額見込(保険料算出基準額) 97.00% 8,124,128,724円	予定保険料収納率 ⑪=⑩÷97%
		所得段階別加入割合補正後被保険者数 102,555人	⑪
		保険料基準額(月額) 6,600円	⑩÷⑪÷12月

2.第1号被保険者の保険料の推計

(1)所得段階別加入者数・基準額に対する割合
標準段階区分・保険料基準額に対する割合

	合計所得金額	所得段階別加入者数		
		令和6年度	令和7年度	令和8年度
第1段階		6,235人	6,238人	6,240人
第2段階		3,646人	3,648人	3,649人
第3段階		3,391人	3,392人	3,394人
第4段階		3,938人	3,940人	3,941人
第5段階		5,579人	5,581人	5,584人
第6段階		6,199人	6,201人	6,204人
第7段階	1,200,000円	4,230人	4,232人	4,233人
第8段階	2,100,000円	1,677人	1,678人	1,679人
第9段階	3,200,000円	583人	584人	584人
第10段階	4,200,000円	292人	292人	292人
第11段階	5,200,000円	182人	183人	183人
第12段階	6,200,000円	109人	109人	110人
第13段階	7,200,000円	401人	401人	401人
計		36,462人	36,479人	36,494人

(2)介護給付費等の推計

①標準給付費

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	合計
標準給付費見込額(A)	11,509,935,740円	11,677,470,925円	11,700,535,666円	34,887,942,331円
総給付費	10,806,161,000円	10,972,043,000円	10,991,236,000円	32,769,440,000円
特定入所者介護サービス費等給付額(財政影響額調整後)	412,211,547円	413,186,740円	415,454,506円	1,240,852,793円
特定入所者介護サービス費等給付額	406,473,496円	406,920,169円	409,153,541円	1,222,547,206円
高額介護サービス費等給付額(財政影響額調整後)	260,422,833円	261,066,576円	262,499,433円	783,988,842円
高額医療合算介護サービス費等給付額	21,821,526円	21,845,506円	21,965,405円	65,632,437円
算定対象審査支払手数料	9,318,834円	9,329,103円	9,380,322円	28,028,259円
審査支払手数料一件あたり単価	63円	63円	63円	
審査支払手数料支払件数	147,918件	148,081件	148,894件	444,893件

②地域支援事業費

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	合計
地域支援事業費(B)	956,441,592円	956,441,592円	956,718,456円	2,869,601,640円
介護予防・日常生活支援総合事業費	637,198,592円	637,198,592円	637,475,456円	1,911,872,640円
包括的支援事業・任意事業費	319,243,000円	319,243,000円	319,243,000円	957,729,000円

(3)保険料収納必要額

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	合計
標準給付費見込額(A)	11,509,935,740円	11,677,470,925円	11,700,535,666円	34,887,942,331円
地域支援事業費(B)	956,441,592円	956,441,592円	956,718,456円	2,869,601,640円
第1号被保険者負担分相当額	2,867,266,786円	2,905,799,879円	2,911,168,448円	8,684,235,113円
調整交付金見込交付割合	5.73%	5.45%	5.16%	
後期高齢者加入割合補正係数	0.9963	1.0088	1.0218	
所得段階別加入割合補正係数	0.9717	0.9717	0.9717	
調整交付金見込額	696,031,000	671,149,000	636,641,000	2,003,821,000円
準備基金の残高(令和5年度末の見込額)				1,391,680,649円
準備基金取崩額				610,000,000円
保険料収納必要額				7,880,404,862円
保険料収納率		97.00%		

保険料の基準額

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	合計
年額				79,200円
月額				6,600円

3. 介護サービス給付費の推計

【介護予防】

(単位:千円)

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
(1) 介護予防サービス			
介護予防訪問入浴介護	0	0	0
介護予防訪問看護	8,628	8,639	8,639
介護予防訪問リハビリテーション	4,863	4,869	4,869
介護予防居宅療養管理指導	3,824	3,917	3,917
介護予防通所リハビリテーション	67,375	67,757	68,583
介護予防短期入所生活介護	7,136	7,145	7,145
介護予防短期入所療養介護	207	207	207
介護予防福祉用具貸与	46,740	46,979	47,565
特定介護予防福祉用具購入費	2,751	2,751	2,751
介護予防住宅改修	11,498	11,498	11,498
介護予防特定施設入居者生活介護	27,601	27,636	27,636
(2) 地域密着型介護予防サービス			
介護予防認知症対応型通所介護	3,564	3,569	3,569
介護予防小規模多機能型居宅介護	33,811	33,854	33,854
介護予防認知症対応型共同生活介護	0	0	0
(3) 介護予防支援	48,491	48,552	48,719
計	266,489	267,373	268,952
【介護】			
	令和6年度	令和7年度	令和8年度
(1) 居宅サービス			
訪問介護	869,459	874,882	877,159
訪問入浴介護	51,854	51,919	51,919
訪問看護	92,367	92,409	91,744
訪問リハビリテーション	29,130	28,423	28,423
居宅療養管理指導	34,238	33,852	33,945
通所介護	1,499,343	1,502,539	1,502,539
通所リハビリテーション	228,957	219,884	220,797
短期入所生活介護	445,588	445,486	446,510
短期入所療養介護	51,627	51,693	51,693
福祉用具貸与	292,228	285,594	285,383
特定福祉用具購入費	9,549	9,600	9,600
住宅改修費	17,886	17,886	17,886
特定施設入居者生活介護	492,837	484,895	487,222
(2) 地域密着型サービス			
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	42,787	42,841	42,841
夜間対応型訪問介護	0	0	0
認知症対応型通所介護	159,985	154,643	154,643
小規模多機能型居宅介護	468,534	473,627	473,627
認知症対応型共同生活介護	334,124	357,678	357,678
看護小規模多機能型居宅介護	262,751	250,872	254,888
地域密着型通所介護	270,663	269,350	270,452
(3) 施設サービス			
介護老人福祉施設	2,413,967	2,417,021	2,417,021
介護老人保健施設	1,726,402	1,728,587	1,728,587
介護療養型医療施設	0	0	0
介護医療院	234,771	400,182	402,436
(4) 居宅介護支援	510,625	510,807	515,291
計	10,539,672	10,704,670	10,722,284
合計	10,806,161	10,972,043	10,991,236

4. 地域支援事業費の見込

(単位:千円)

		令和6年度	令和7年度	令和8年度
介護予防・日常生活支援総合事業費		637,199	637,199	637,476
介護予防・生活支援サービス事業費		624,355	624,355	624,632
一般介護予防事業費		10,478	10,478	10,478
審査支払手数料		2,366	2,366	2,366
包括的支援事業・任意事業費		319,243	319,243	319,243
包括的支援事業費		219,960	219,960	219,960
地域包括支援センター事業費		160,917	160,917	160,917
在宅医療・介護連携推進事業費		12,920	12,920	12,920
認知症総合支援事業費		6,749	6,749	6,749
生活支援体制整備事業費		39,374	39,374	39,374
任意事業費		99,283	99,283	99,283
介護給付等費用 適正化事業費	介護給付等費用適正化事業費	1,978	1,978	1,978
	家族介護 支援事業費			
	家族介護者交流会事業費	636	636	636
	家族介護慰労金支給事業費	300	300	300
	寝たきり高齢者等 紙おむつ等給付事業費	21,966	21,966	21,966
	認知症サポーター養成等事業費	337	337	337
	認知症外出見守り事業費	220	220	220
その他の事業費	成年後見制度利用支援事業費	12,858	12,858	12,858
	住宅改修支援事業費	170	170	170
	訪問給食サービス事業費	60,818	60,818	60,818
合 計		956,442	956,442	956,719

用語解説

あ行

いきいき百歳体操

いすに座って、おもりを手首や足首に巻いて、ゆっくりと手足を動かす筋力体操です。継続することで、筋力を維持・向上でき、転びにくくなったり、立ち上がり等の動作が楽にできるようになります。

か行

介護給付準備基金

介護保険財政の健全な運営を図るための市の基金です。保険料収納額を必要な経費に充てた残余金を次年度以降の保険給付に要する経費に充て、介護保険料の不足分を補います。

介護支援専門員（ケアマネジャー）

要介護・要支援認定を受けた人等の希望や心身の状況、生活環境等を把握して介護サービス計画（ケアプラン）を作成し、適切な介護サービスの利用ができるよう市区町村や事業者等との連絡、調整等を行う人です。通称ケアマネジャー、略称ケアマネと呼ばれます。

介護予防・日常生活圏域二エズ調査

本計画の策定に当たり、地域における高齢者の生活状況を把握し生活状態にあった介護サービスなどの各種福祉サービスを提供するため、全国共通の調査項目により高齢者の生活機能などを調査した記名アンケート調査です。

カンファレンス

高齢者と家族が安心して療養生活を送るために、病院や在宅生活に関わる医療機関、ケアマネジャーをはじめとする医療・介護の専門職などが行う会議で、医療上、生活・介護上の検討課題を洗いだし、支援目標や支援内容を明らかにするとともに、支援に向けた連携体制を構築します。

基準額

保険料段階の第5段階における保険料で、この基準額をもとに所得に応じた13段階の保険料が設定されます。

共生福祉相談員

ひとり暮らしの高齢者等に対し、訪問を通じた、安否確認や生活相談などを行っています。

ケアプラン

要介護・要支援に認定された本人や家族の希望に添った介護サービスを適切に利用できるように、本人や家族の心身の状況や生活の環境などに配慮し、利用する介護サービスの種類や内容を定めた「介護サービスの利用計画」のことです。

ケアマネジメント

利用者に必要な介護サービスを判断し、複数のサービスを組み合わせて総合的に提供されるよう調整を行い、介護サービスが適切に実施されているかを確認し、その効果を評価する一連の作業です。この作業サイクルを継続しながら介護サービスを提供していきます。

高齢化率

総人口に占める65歳以上人口の割合です。

さ行

事業対象者

基本チェックリストにより、生活機能の低下がみられ、介護予防・日常生活支援総合事業のサービス対象者とされた方です。

人口調査（現住人口と住基人口）

人口は、一般的に国勢調査の人口を基に毎月の住民基本台帳による転入・転出者及び出生・死亡者数等を加減した現住人口をいいます。

しかし、現住人口では町・大字別など詳細な数値が得られないことから、詳細な分類が必要な調査については住民基本台帳(住民票)による住基人口による統計を行っています。

生活支援コーディネーター

高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進していくことを目的に、地域において生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネーターの役割を担っています。

成年後見制度

判断能力の不十分な認知症高齢者や知的障がい者、精神障がい者等を擁護するため、本人の財産管理や契約などについて後見人等（後見人・保佐人・補助人）が代行して行うことで、本人の権利を守る民法上の制度です。

た行

第1号被保険者

65歳以上の市民をいいます。65歳になると介護保険サービスが受けられるようになり、介護保険料は年金、もしくは納付書で納めていただくようになります。

第2号被保険者

40歳以上65歳未満の市民をいいます。40歳になると介護保険に加入し、介護保険料は医療保険と併せて納めていただくようになります。

地域共生社会

制度や分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会です。

地域サロン

地域の町内会や民生委員・児童委員、共生福祉相談員等の世話人が中心になり、高齢者等を中心に、身近な集会所等において、茶話会や健康講話、レクリエーション活動等の様々な催しを自主運営している交流活動であり、地域住民同士の支え合いを推進するとともに、介護予防にも効果的な活動です。

地域支援事業

高齢者が要支援・要介護状態となることを予防するとともに、要介護状態となった場合でも、可能な限り地域で自立した日常生活を営むことができるよう支援するための事業です。必ず実施しなければならない介護予防・日常生活支援総合事業及び包括的支援事業と、各市町村の判断により行われる任意事業があり、その財源は以下のとおり介護保険料と公費で構成されています。

地域支援事業費の財源構成

事業の区分	国	都道府県	市町村	第1号保険料	第2号保険料
介護予防・日常生活支援総合事業	25.0%	12.5%	12.5%	23.0%	27.0%
包括的支援事業、任意事業	38.5%	19.25%	19.25%	23.0%	—

地域福祉計画

住み慣れた地域で誰もが安心して暮らせる地域社会を目指して、行政や地域住民、社会福祉関係機関等が協働のもとに支えあい、問題解決に取り組むための指針等を定め、地域福祉の推進を図ろうとするものです。

な行

認知症

認知症は、様々な脳の病気により脳の神経細胞の働きが徐々に悪くなること。記憶力・判断力が低下して、社会生活に支障をきたした状態をいいます。

認知症カフェ

認知症の方やその家族、地域住民や専門職等誰もが気軽に集うことができ、同じ境遇の人と悩みを共有したり、地域住民と交流を深めたりすることのできる場をいいます。

認知症ケアパス

認知症の人ができる限り住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、認知症の症状や進行状況に合わせて、いつ、どこで、どのような医療・介護サービスを受ければよいかを示したものです。

認知症地域支援推進員

認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活するためには、医療・介護および生活支援を行うさまざまなサービスが連携したネットワークをつくり、効果的な支援を行うことが大切です。

認知症地域支援推進員は、医療や介護サービスおよび地域をつなぐコーディネーターの役割を担っています。

や行

要介護認定率

介護保険被保険者数に占める要介護認定者の比率です。

英数

ADL

日常生活動作（Activities of Daily Living）の略で、食事、排せつ、着脱衣、入浴、移動、寝起きなど、日常の生活を送るために必要な基本動作のことで、高齢者の身体活動能力や障がいの程度をはかる上で重要な指標の一つとなっています。

IADL

手段的日常生活動作（Instrumental Activities of Daily Living）の略で、ADLを基本とした日常生活上の複雑な動作のことです。買い物や洗濯、電話、薬の管理、金銭管理、バス等の乗り物の利用等の動作が含まれます。

ICT

情報通信技術（Information and Communication Technology）の略で、パソコンやインターネットなどのコンピューター技術、またはそれらを構成するハードウェア、ソフトウェアの総称を指します。

会津若松市介護保険運営協議会委員名簿

令和6年1月1日現在 敬称略

		氏名	区 分	所属
1	会長	石田 実	学識経験者	区長会の代表
2	委員	歌川 友博	被保険者	被保険者代表
3	委員	加羅 幸子		被保険者代表
4	委員	鈴木 かおる	福祉関係者	会津地区老人福祉施設協議会の代表
5	委員	阿久津 恵子		認知症の人と家族の会代表
6	委員	渡部 正美		民生児童委員の代表
7	委員	本名 由美		介護支援専門員協会の代表
8	委員	嶋津 葉子		老人クラブ連合会の代表
9	委員	松本 かおり		社会福祉協議会の代表
10	委員	新井田 有耕	保健医療関係者	医師会の代表
11	委員	渡部 圭一		歯科医師会の代表
12	委員	野中 聡美		薬剤師会の代表
13	委員	木谷 耕平	学識経験者	大学の教授等
14	委員	廣田 和恵		司法書士会の代表
15	委員	武藤 理恵子	被保険者等 保険者の代表者	組合健康保険の代表
16	委員	皆方 貞子	地域コミュニテ ィ活動関係者	地域支援ネットワークボランティア の代表
17	委員	古川 晃		ふれあいサロンの代表
18	委員	大橋 紀行	事業主を代表す る者	介護事業所以外の一般事業所の代表

会津若松市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画の策定経過

令和4年10月	<ul style="list-style-type: none"> 在宅介護実態調査実施
令和4年11月	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度第2回介護保険運営協議会 (第9期計画策定方針、各種調査の実施について) 文教厚生委員会協議会 (第9期計画策定方針、各種調査の実施について)
令和4年12月	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防・日常生活圏域二エズ調査実施
令和5年4月	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者一般調査実施 地域ケア会議における地域の意見聴取 (令和5年9月に向け、16地区にて各2回実施)
令和5年5月	<ul style="list-style-type: none"> ケアマネジャーアンケート実施
令和5年6月	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度第1回介護保険運営協議会開催 (前年度介護保険事業の総括について)
令和5年8月	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度第2回介護保険運営協議会開催 (第8期計画総括、アンケート調査結果について)
令和5年10月	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度第3回介護保険運営協議会開催 (第9期計画骨子案について) 計画策定連絡会議(関係課長会議)
令和5年11月	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度第4回介護保険運営協議会開催 (計画素案、パブリックコメントの実施について) 計画策定連絡会議(書面開催)
令和5年12月	<ul style="list-style-type: none"> 文教厚生委員会協議会報告 (計画素案、パブリックコメントの実施について) 計画素案にかかるパブリックコメント実施
令和6年1月	<ul style="list-style-type: none"> 計画素案にかかるパブリックコメント終了 令和5年度第5回介護保険運営協議会開催(諮問及び答申案検討)
令和6年2月	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険運営協議会より答申 文教厚生委員会協議会報告(第9期介護保険料について) 介護保険条例(介護保険料等)2月定例会議に議案提案
令和6年3月	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険条例(介護保険料等)2月定例会議にて議決
令和6年4月	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画スタート

会津若松市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画

令和6年3月

発行 会津若松市健康福祉部高齢福祉課

〒 965-8601 会津若松市東栄町3番46号

Tel 0242-39-1111